平成19年度文部科学省委託事業

総合的な放課後対策推進のための調査研究

放課後活動支援モデル事業　報告書

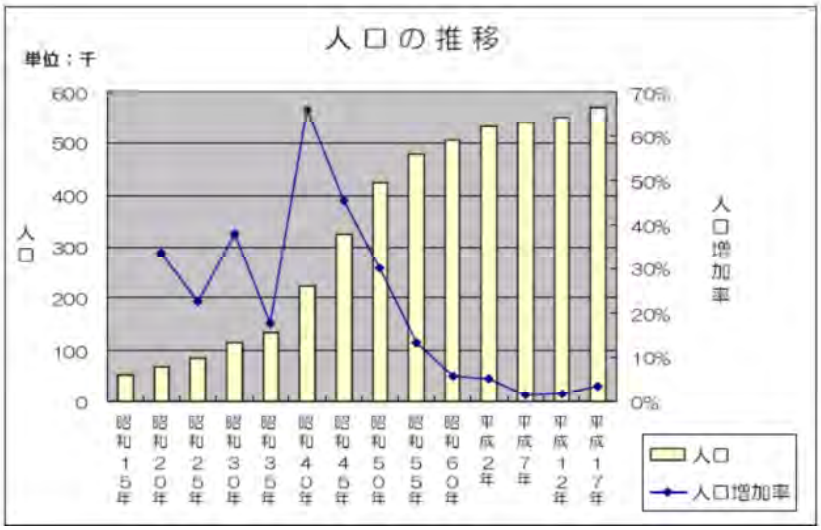
平成 20 年 2 月

船橋行田放課後対策実行委員会

1．事業の背景

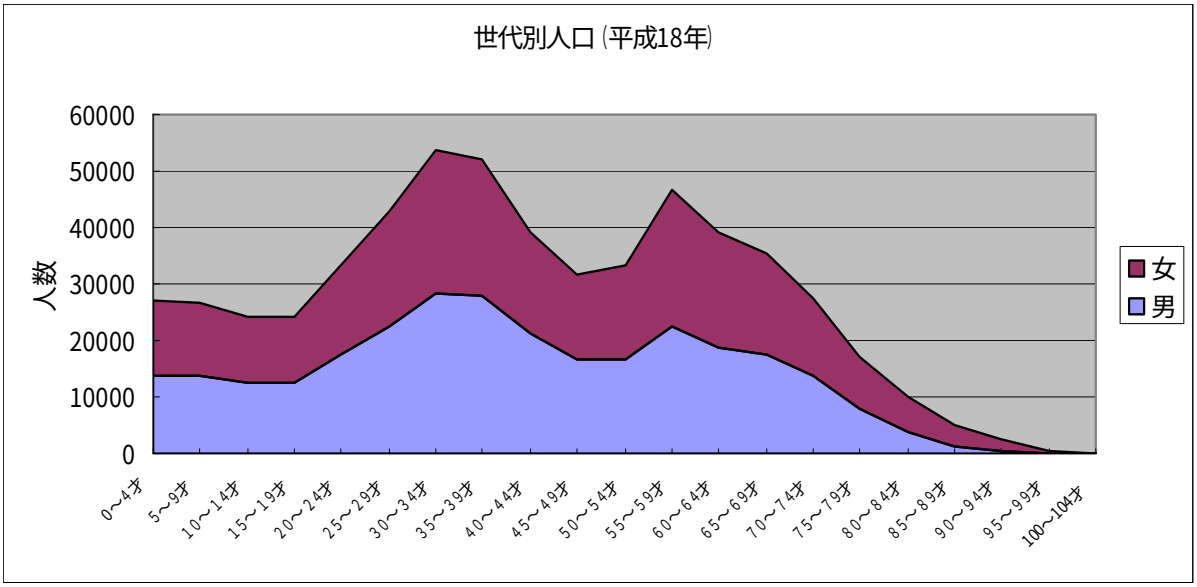
千葉県船橋市の状況

大都市のベッドタウンは、昭和の高度成長期に形成されている。それらの中で、1時間内外の通勤圏となっている地域では、平成 11 年からのマンションブームで子育て世代が大量に入居した地域が数多くある。本事業を実施するＪＲ西船橋駅の北側の地域もそのひとつである。



船橋市の人口は昭和 40 年に 20 万人強であったものが、昭和 50 年までの 10 年間で約 20 万人増え倍増している。この時期に開発された地域が多く、30 歳で住宅を購入し入居した方々は現在は 65 歳になっている。

船橋市で一番人口の多い世代は団塊 2 世を含む 30 歳代～40 歳代前半である。この世代は 65%が結婚しており、子育て中あるいは子育て予備軍である。船橋市でも少子化は進んでいるが、平成 11 年以降第 2 次の開発ブームが訪れており、子育て世代の流入も多く、極端な少



子化には陥っていない。そして 2007 年から団塊の世代がしだいに退職し地域に戻ってくる。1 日のほとんどを職場で過ごしていた方々が、自宅のある地域で過ごす時間が増え、消費の担い手としてだけでなく、地域活動の担い手として取り込んでいければ大きな戦力になる.

船橋行田地区の状況

本取組は千葉県船橋市の西部にある行田地区で実施した。行田地区とは船橋市立行田中学校の校区（４つの小学校区～船橋市立行田東小学校、行田西小学校、法典西小学校、西海神

小学校、居住者数 2 万 8000 人を合わせた範囲）を指す。千葉県立の行田公園が中心部にあり、その周りに広がる地域である。

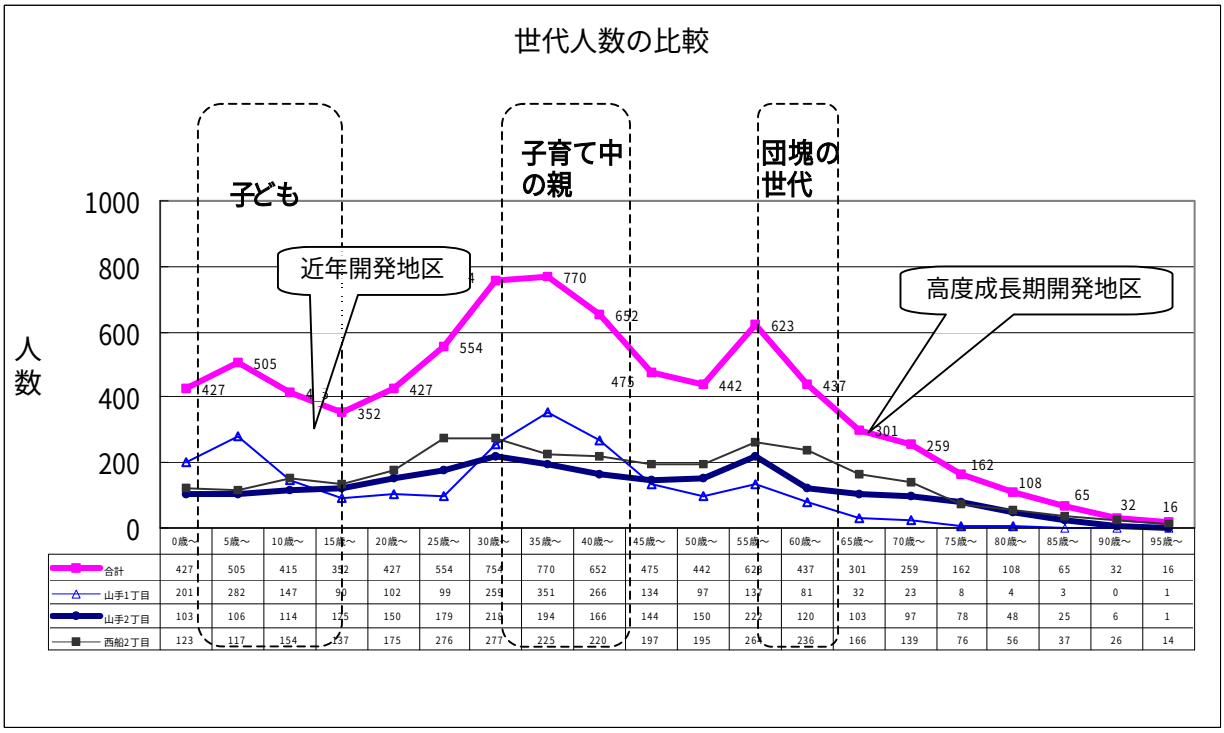
行田地区は、昭和の高度成長期に第一次の開発ブームがあり、1000 世帯を擁する公団住宅（行田団地　行田 1 丁目、2 丁目）や 322 世帯を擁する民間集合住宅（西船橋グリーンハイツ　西船 2 丁目）ができ、その周りに一戸建住宅（山手 2 丁目）もこの時期に多くつくられた。これらの地区の地域活動は 10 数年前までは活発であったが、住民の高齢化と共に停滞しているところも多い。

そしてここ数年、宅地開発がまた一挙に進みつつあり第二次開発ブームの様相を呈している。大規模工場の跡地できた 721 戸の高層マンション郡（ルネ・アクシアム　山手 1 丁目）等の集合住宅をはじめ、畑を宅地造成したところに集合住宅や一戸建住宅も数多くつくられている。この地区の地域活動は、はじまったばかりであるが、30 代から 40 歳代の世代は働くことに精一杯で地域の活動まで意識が及んでいない。現在、行田地区に住んでいる住民の人口分布は以下のようになっている。

行田公園隣接町丁別人口

町丁	世帯数	男	女	合計	15 歳未満	15 歳～64 歳	65 歳以上
行田１丁目	877	1, 163	1, 137	2, 300	401	1, 717	182
行田２丁目	1, 109	1, 163	1, 113	2, 276	384	1, 682	210
行田３丁目	1, 292	1, 592	1, 430	3, 022	583	2, 246	193
西船２丁目	1, 308	1, 590	1, 527	3, 117	399	2, 242	476
山手１丁目	772	1, 147	1, 150	2, 297	613	1, 638	46
山手２丁目	971	1, 270	1, 143	2, 413	369	1, 698	346
山手３丁目	528	699	638	1, 337	154	1, 018	165
印内３丁目	389	539	432	971	208	719	44
合計	6857	8624	8138	16762	2903	12241	1618

近年開発地区（山手 1 丁目）、昭和の高度成長期開発地区（山手 2 丁目、西船 2 丁目）の比較



近年開発地区（山手 1 丁目）の人口には 5 歳以上 10 歳未満と 35 歳以上 40 歳未満の 2 つにピークがあり、昭和の高度成長期開発地区（山手 2 丁目、西船 2 丁目）では 55 歳以上 60 歳に人口のピークがある。山手 1 丁目は大規模マンションに子育て世代が入居し、放課後はマンションの中庭で大勢の子どもが遊んでいる。西船 2 丁目も 33 年前に造成されたころは大勢の子どもが遊んでいたが、現在はその中心をなしている 322 戸の集合住宅で小学生の数が数十人となり、少子高齢化が極端に進んでいる。山手 2 丁目は古くからある戸立て住宅と近年できた中規模マンションとで構成されており両者の中間の状況にある。

これらの 3 地区を平均すると船橋市全体の人口構成割合にほぼ近い形になるが、地区によって人口構成には大きな違いがあり、街の風景も一変する。小学校区程度の範囲の地域でも、それを町丁の単位で見ていかないと、その地域の実態が見えてこない。大都市近郊のベッドタウンの多くは、開発時期の違いによる「まだら模様」のような地域実態があり、そこを見ていくことによって課題が浮き彫りにされる。

船橋行田地区の課題

＜世代間ギャップ＞

平日の午後に現場にいることのできる人しか、放課後対策の現場の担当者になることはできない。そこで定年を過ぎ時間的余裕のある方に白羽の矢が立てられる。しかし、この世代が継続的に地域の子育ての一翼を担うようになっているところは稀である。船橋行田地区でも同様である。様々な原因が考えられるが、以下の 2 点に注目した。

●地域内において、子育て世代と定年後の世代の居住地区が別れているため、地縁的な交流が生まれない。前述のように、船橋市行田地区は、昭和の高度成長期に開発された地域と、ここ数年のマンションブームでできた地域に色分けできる。前者には定年を過ぎた方々が多く、後者は子育て世代が入居している。この 2 つは通り 1 本を隔てて隣り合わせになっているところも多いが、交流はない。

●世代間に意識やコミュニケーションの壁があり、お互いに良好な関係が結べない。例えば、それぞれの世代で以下のような感覚を持っている。

・ 定年後の世代は、自分自身の子育てが一段落しており、その経験から子育てはこうあるべきだという子育て観を持っているが、時代環境が違うため、それを若い世代に押し付けるべきではないと思っている。

・ 子育て世代は、組織や集団として活動するよりも、家族や友人といった気心の知れた小さな集団で活動する方を好み、葛藤しながら異世代の大人と協働しなければならないと思うと腰が引けてしまう。

＜活動団体の活力低下＞

船橋行田地区でもＰＴＡや子ども劇場など、小学生の保護者が中心となって活動している団体は数多くあるが、団体内の活動に終始しがちで、団体の横のつながりを持ちながら、地域の子ども全体を視野に入れて活動している団体は少ない。これは、保護者自体が家族や友人と行動し、団体での組織的な活動は必要最小限にとどめたいとする傾向が強く、団体としての活力が低下してしまっていることの表れでもある。役員のなり手がなくて困っているところも多い。

2．事業の実施概要と成果

本取組みは、各団体を横につなげ、地域全体を視野に入れ、団体間の連携を図ると同時に、実行のパワー不足を補うためは団塊の世代を組織化して子育て世代をサポート（以降　「放課後サポート隊」という）していき、子どもたちを地域の人との関わり合いの中で育てていくことを狙いとした。

この取組を実施するために、小学生の放課後の活動に関わっている団体（昨年まで地域子ども教室を実施していた団体：船橋自然体験クラブ、放課後児童クラブを運営している団体および父母会：行田ジャングルクラブ,行田子育て協議会,行田西小学校放課後ルーム父母会,行田東小学校放課後ルーム父母会,法典西小学校放課後ルーム父母会,西海神小学校放課後ルーム父母会、障害児の預かり保育をしている団体：キッズハウス COCO）で実行委員会を構成した。

放課後サポート隊の組織化

子どもの放課後を豊かにすることを目的に、平日の午後に活動できる方々が活動するサポーター組織（放課後サポート隊）をつくった。すでに地域活動を行っている方々ではなく、これから地域活動に関わっていきたいと思っている方々を対象とした。

活動にあたっては、子どもたちは地域で生活する大人と活動を共にすることによって、活動内容そのものから得る体験と同時に、その過程での関わり合いを通じて、社会性、人間関係というより広範なものを実感レベルで体得することに重点を置いた。このために、プログラムで運営スタッフを必要とする場合、外部に人材を求めるのではなく、子どもたちと地域を同じくする身近な大人としてサポート隊が活動するようにした。

サポーターの募集で一番功を奏したのは、「行田公園で遊ぼう」を実施した現場での呼びかけだった。まずは、スタッフ３人でとにかく始めようということで、行田公園にのぼりとドッチビーのディスクだけを用意して出かけた。のぼりは昨年までの地域子ども教室のために、自然体験活動推進協議会から支給されたオレンジ色のものを使用した。(ドッチビーのディスクとは、スポンジ製のフリスビーのようなもの。ドッチボールと同じようにして行うニュースポーツの一種)。のぼりを立てて、集まってきた子どもたちと一緒にドッチビーをしているところの傍らで、サポーター募集のチラシを配くばった。あわせて、行田公園は公園内にサイクリングロードがあり、常時何人かの人が、ジョギング、ウォーキングをしているが、この方々にもチラシを配り、参加を呼びかけた。また、行田公園で毎朝 6 時半から 10 数人ほどの方々がラジオ体操をしている。その現場にも出かけ、チラシを配りながらＰＲした。

また、地域内になる船橋市立行田東小学校と行田西小学校で全校生徒に「「行田公園で遊ぼう」を知らしめ、放課後サポーターを募集するチラシを配布した。この中からも小学生の祖母に当たる方がサポーターに登録し、活動を支えてくれた。

本事業を通して、17 名が放課後サポーターとして登録し、内 10 名は継続的に活動に参加した。事業は 2 月で終了したが、3 月以降も活動中である。10 月 20 日から毎週水曜日の 15 時から 16 時 30 分と土曜日の 14 時から 16 時に継続的に「行田公園であそぼう」を実施した

ことが、サポーターの組織化とその維持に役立った。

サポーターは、リタイア後の熟年世代の方々が中心である。竹馬や凧をつくってくれたり、竹とんぼのつくり方や飛ばし方を教えてくれたり、ドッチビーのラインを引きルールや遊び方を教えてくれたりしている。毎回、商店街にある交流室から道具を持ってきて、また持って帰ってくれるのもこの世代の方々である。それぞれの役割を楽しみながら、誇りを持って取り組んでいる。

行田公園には、朝の体操から始まり、グランドゴルフ、散歩、ウォーキング、ジョギングと様々な地域住民が使っている。特にお仕事をリタイアされた熟年世代の方々が多く、天気の良い日中は幼児連れの親子も多く見られる。多世代の方々が思い思いに過ごしているが、世代を超えた交流は多くはない。「行田公園で遊ぼう」を継続的に実施したことで、子どもとその親と熟年世代の交流ができたことも大きな成果である。

「行田公園で遊ぼう」を実施するに先立って、小学生をもつ 4 人のお母さんに集まっていただき話を聞いた。「友だちと部屋にこもりっきりでゲームを各々でやっている」「外に行くときも DS や遊戯王カードを持って出て遊んでいる」「外で遊んでほしいが、自分自身は外遊びをあまりやった経験がないので、教えられない」「行田公園はに子どもだけで遊びに行くのは防犯上心配だ」という話が出てきた。自分だけでは出来ないけれども、体を使って元気に外遊びをしてほしいという願いが伝わってきた。このような思いを実現したのが、熟年世代の放課後サポーターの方々ということになる。参加回数の多い 3 人の方を紹介する。

関口四郎男さん

年齢は 60 歳代中盤。この行田で生まれ育った方。母屋の屋号は「屋根や」といい「農家の四男坊として育ったため苦労した」とは本人の言。左官屋、大工、水道屋、電気屋も経験したということで、修理だったら何でもできる。事実　頼まれて地域の人の家の修繕なども行っている。

もともと行田町に住んでいたが、新しい道路が通った関係で、今は海神に住んでいる。両方の地域の町会や老人会に顔を出していて、知り合いも多く、地元の有名人でもある。車で 1 時間くらいかかるが印西に畑を持っていて、農作業に通っている。農作物は行田地域のスーパー（Ａコープ）に出荷している。

10 月に金杉に竹取に行った。竹馬を作ってくれるというので、10 数本の真竹を取った。竹の枝を払い、それを束ねるときの身のこなしの早さは目を見張るものがあった。昔とった杵柄ならぬ、現在もバリバリの現役であることを感じさせてくれた。その竹を利用して竹馬を 6 台作ってくれた。関口さんが半世紀前に作って遊んでいた竹馬が、同じ行田の地によみがえった。

また、輪投げの道具もつくってくた。輪が入る棒はテーブルの脚を、棒を支える円盤は電気の傘を再利用してつくった。輪は三輪車のタイヤにビニールテープを巻いたもの。

小泉實さん

60 歳代前半。長く郵便局に勤めていて、退職された方。今回開設した交流室のすぐ近くの行田団地にお住まいで、よく交流室に来てくれた。北海道の苫小牧出身で、若い頃は野球をやっていた。巨人の長島を見て育ったからか、スローイングのフォームが長嶋に似ている。

「行田公園で遊ぼう」でも子どもたちとよくキャッチボールをしている。

ご本人曰く「昨年、脳梗塞になってしまった関係で、体が利かなくなった」ということもあってか、ドッチビーなど体を使って子どもと遊ぶよりは、竹馬や輪投げの補助などをしてくださっている。特筆すべきは、交流室から行田公園までの道具運びを毎回してくださっていること。竹馬 6 台、のぼりとその鉄の台、サポーターの方々の帽子、ドッチビーのディスク、こま板とこまなどを台車に積んで持ってき、また台車を引いて持ってきてくださる。竹馬とのぼりは長さが長いため、安定の悪い中を立てて積まざるを得ない。運びにくく、コンクリートの上を行くためゴトゴト揺れる。開始 1 時間前に毎回やっていただいた。

江口実さん

年齢は 60 歳代中盤。商社勤めをされ、退職された方。この地域に住むようになったのは 1 年ほど前。その前は、関西にお住まいで、近くの小学校にボランティアで読み聞かせに行っていたそうだ。子どもに接するのが好きで、船橋でもこんな活動はできないものかと探していた。そこへ放課後サポーター募集を目に留めた。

江口さんは子どもたちの仕切り方がたいへん上手。「行田公園で遊ぼう」は、誰が参加してもいい場であるがゆえに、お互いが知らない子どもたちが一緒に遊ぶことになる。竹馬や竹とんぼは 1 人でも遊べるが、ドッチビーは集団で遊ぶ。それなりの仕切りがないと組分けひとつできない。江口さんが、主にこの役割を担ってくれている。

ドッチビーのラインは、白い荷造り用の紐を地面に固定している。これを固定する金具を作ってきてくれたのも江口さん。針金のハンガーを 10 センチ程度に切り、真ん中から折り曲げたもの。はじめは釘を使っていたが、この金具の方が紐を地面にしっかり固定できる。また、釘よりも地面から抜くのが楽で、なくなることもない。

また、江口さんは、マグネット式のダーツを毎回持ってきてくれる。点数が自動掲示され、それも面白さを醸し出している。

複合的な活動プログラムの実施

○　活動と生活の 2 つの視点

放課後子ども教室がもつ様々な体験を通じて子どもの好奇心に訴える活動面の視点と、放課後児童クラブ（学童保育）がもつ生活面の視点を併せ持ったプログラムとした。

活動の面からは、地域の自然と人の資源を活用し様々なプログラムを進めた。行田地域の中心に位置する行田公園は 11.9 ヘクタールの面積を有し、四季折々の表情を持っている。また、隣接する地区にはキャンプ場や水生生物が豊富な河川もあり、そこで活動している大人も多い。これらを組みあわせることでダイナミックな活動を展開した。（野外キャンプ、行田公園で遊ぼう、夏休みラジオ体操、セミ脱皮観察会、稲作体験、ホタルを呼び戻す取組）

生活面の視点からのプログラムの展開では子どもが活動する“環境”づくりを大切にした。環境づくりには、活動に常時従事する大人の存在が欠かせない。その役割を放課後サポーターがにない、子どもたちと活動の環境整備がなされることで、活動の効果を高めた。（行田公園で遊ぼう）

○　地域とのふれあい

行田団地商店街は、行田地区の中心に位置し、以前は活況を呈していたが、大手スーパ

ーマーケットやホームセンターの出店で顧客が減少し、空き店舗もでてきている。そこで商店街に人を呼び入れることも狙い、商店街前の広場を利用して、商店街でバザーや商品の出店（でみせ）販売を行った。また地域の行田夏祭りにも露天を出した。これらでは子どもも売り子を勤めて地域の人に接する機会とした。（ストリートコンサート、餅つき大会）

○ 保護者から離れ、子どもたちだけの集団生活

子どもにとって最も影響を受ける大人である保護者から一時的に離れる機会を定期的に設けることで、子どもが自己確認を深める一助とする。（野外キャンプ）

子どもがもつ独自の世界の中での、縦割りをはじめとする様々な関係に身を投じることにより生まれる楽しみや課題を通じて、集団で活動することを学んだ。（お泊り会）

○ 障害を持っている子どもの活動の充実

施設内や地域での活動に加えて、交通機関を使って遠出し活動内容を豊かにすると同時に、自立を促すための支援として、家族以外の人とのコミュニケーションを大切にしながら、社会参加を促した。（遠足～葛西臨海水族園/千葉市科学館/浅草花やしき）

プログラム内容

区分	事業名	内容	主幹団体
放課後の効果的な活動プログラムを実施する取組	行田公園で遊ぼう	毎週 2 回定期的に、行田公園で竹馬、竹とんぼ、ドッチビー、こま回しなどをおこなった。	行田ジャングルクラブ 船橋自然体験クラブ
	野外キャンプ	夏は 2 泊 3 日、秋は日帰りで実施。保護者は自分の子どもの入っていないグループの世話役になり、新たな関係づくりを行った。	行田ジャングルクラブ 放課後ルーム父母会
	お泊り会	夕食、お風呂、就寝、朝食といった集団生活体験を夏休みに行った。	行田ジャングルクラブ
	セミ脱皮観察会	夏休みの夕方から夜に、いっせいに脱皮のために地上に上ってくるセミを観察した。	行田ジャングルクラブ 放課後ルーム父母会
障害をもった子どもの活動機会の充実のための取組	遠足（葛西臨海水族園、千葉市科学館、浅草花やしき）	いつもと違う場所の不安を取り除くために、集団で公共の乗り物を利用し遠出した。	キッズハウス COCO
地域の多様な主体が連携・協力した取組	商店街イベント、行田夏祭りがくどうまつり	地元商店街と協働し、商店街の活性化に寄与するイベントを行った。また地域の祭りに出店した。	行田団地商店会 行田保育園父母会 学童保育連絡協議会 保育問題協議会
	ラジオ体操	商店街の一角で、毎朝ラジオ体操を行った。	行田団地自治会 コスモ自治会
	稲作 河川整備	谷津田の環境整備を行っている団体や公園の整備を行っているＮＰＯと協働し、田植え、稲刈り、河川整備を行った。	行田子育て協議会 金杉谷津田の会 とんぼエコオフィス

実施日程

放課後サポーター学習会　計22回		
実施日程	実　施　内　容	参加人数
8 月 25 日	セミの脱皮観察、抜け殻から雌雄の見分け方	8
8 月 27 日	ラジオ体操の効果的な指導	12
9 月 11 日	第１回地域活動入門セミナー	5
9 月 22 日	放課後サポーター説明会	7
9 月 27 日	第２回地域活動入門セミナー	5
10 月 3 日	公園で遊ぼうの内容について	5
10 月 13 日	野外活動指導	13
10 月 15 日	放課後サポーターを増やすために	6
10 月 27 日	竹馬作り実践	5
11 月 12 日	地域自治会との連携	7
12 月 1 日	竹とんぼの作り方	9
12 月 8 日	親子竹とんぼ教室	7
12 月 15 日	竹馬の乗り方	6
12 月 19 日	コマ、剣玉の指導法	6
1 月 19 日	親子竹とんぼ教室	6
1 月 19 日	100 人で遊ぼう	5
1 月 20 日	高根プレイパーク見学	4
1 月 26 日	コマ、剣玉の指導法	7
1 月 26 日	100 人で遊ぼう	5
1 月 30 日	サポーター懇談	7
2 月 2 日	100 人で遊ぼう	7
2 月 16 日	100 人で遊ぼう	7

＜プログラム実施＞		小学生数	大人、ボランティア数
放課後の効果的な活動プログラムを実施する取組			
8月18～20日	野外キャンプ（サマーキャンプ）	40	42
8月25日	セミ脱皮観察会	55	20
8月25日	お泊まり会	22	5
10月13日	野外キャンプ（デイキャンプ）	22	17
10月～2月	行田公園で遊ぼう　計25回（悪天等の中止7回）	約 750	250
障害をもった子どもの活動機会の充実のための取組			
10月13日	遠足 葛西臨海水族園	10	10
1月26日	遠足 千葉市科学館	10	7
2月16日	遠足 浅草花やしき	8	7
地域の多様な主体が連携・協力した取組			
8月7～29日	夏休みラジオ体操	延 208	15

8月17日	種ボタル採集	8	4
9月8日	金杉谷津田　ザリガニ釣り	7	0
9月15日	稲作体験　稲刈り	16	11
10月6日	稲作体験　脱穀	12	8
10月28日	商店街まつり ストリートコンサート	約 200	約 50
10月28日	がくどうまつり	約 500	約 100
11月17日	金杉谷津田収穫祭	18	17
12月1日	長津川整備	8	11
12月15日	長津川整備	4	6
1月19日	長津川整備	4	4
2月2日	商店街まつり もちつき	130	70
2月23日	長津川整備	4	4

船橋市との連携

船橋市では、一昨年より毎月第３土曜日を「ふなばしハッピーサタデー」とし、行政と地域の大人たちが連携を図りながら、子どもがスポーツや文化活動などに親しめるような機会づくりを行っている。放課後子ども教室と類似の事業で、教育委員会生涯学習部青少年課が担当している。また、放課後児童クラブは、子育て支援部児童育成課が担当し全55小学校区に「放課後ルーム」という名称で開設している。

年度当初、放課後子どもプランに対しては、慎重に状況を見てから実施の方策を検討したいとしていた。また放課後子ども教室に関しては、講師謝金の単価が低く、ボランティアベースでしか実施できないのがネックとなっているといっていた。本年度、当実行委員会として「放課後ルーム」と連携して放課後子ども教室を実施するように働きかけた。

来年度は「ふなばしハッピーサタデー」事業を、内容を充実し、放課後子ども教室として実施することになった。また、来年度に行田地区で実施する「ふなばしハッピーサタデー」事業の一部を、本実行委員会のネットワークを活かし、放課後サポーターで運営することとなった。

3．事業の実施体制

団体の構成

以下の団体（人員構成）で船橋行田放課後対策実行委員会を組織した。

氏　名	職　名	当事業における担当内容
條　冬樹	行田ジャングルクラブ会長	実行委員（せみ観察会、お泊まり会担当）
生島　潤	〃　副会長	実行委員（野外キャンプ担当）
樋口澄則	〃　事務局長	実行委員（夏休みラジオ体操担当）
東田　成	〃　理事	実行委員長（ｻﾎﾟｰﾀｰ、ﾌﾟﾚｲﾊﾟｰｸ担当）
広野　章	行田ジャングルクラブＯＢ会会長	実行委員（行田公園で遊ぼう担当）
佐藤信幸	行田子育て協議会会長	実行委員（稲作　ホタル担当）
竹田陽一郎	行田西小学校放課後ルーム父母会長	実行委員（野外キャンプ担当）
市川千登世	行田東小学校放課後ルーム父母会長	実行委員（野外キャンプ担当）
照屋壮仁	法典西小学校放課後ルーム父母会長	実行副委員長（稲作　ホタル担当）
島津光典	西海神小学校放課後ルーム父母会長	実行委員（稲作　ホタル担当）
小野孝美	行田保育園父母会会長	実行委員（商店街祭り担当）
栗原　潔	船橋自然体験クラブ代表	事務局長（ｻﾎﾟｰﾀｰ、ﾊｯﾋﾟｰｻﾀﾃﾞｰ担当）
上村久美子	キッズハウスCOCO代表	実行委員（障害を持っている子どもの遠足担当）
平井久美子	キッズハウスCOCO副代表	実行委員（障害を持っている子どもの遠足担当）

（２）協力機関

機関名	機関の所在地	当事業における担当内容
行田団地商店会	千葉県船橋市行田3-2-13	商店街祭り
行田団地自治会	千葉県船橋市行田3-1-11	夏休みラジオ体操
ｺｽﾓｻﾞﾊﾟｰｸｽ船橋自治会	千葉県船橋市西船3-6-25	夏休みラジオ体操
金杉谷津田の会	千葉県船橋市金杉台1-2-7	稲作体験
とんぼエコオフィス	千葉県船橋市本町4-20-18	ホタルを呼び戻す取組
船橋市学童保育連絡協議会	船橋市南本町３１－５	がくどうまつり
船橋市保育問題協議会	千葉県船橋市本町３－４－３	がくどうまつり

4．今後の課題

放課後対策における行田公園の活用

行田地区の放課後対策という観点からは、いくつもの切り口がある。学校と住民の協働、新住民と旧住民の関係づくり、新住民の我が街意識醸成等々上げればきりがない。ここでは、今回の活動の中心となった行田公園というフィールドを軸に課題を考察する。

「行田公園で遊ぼう」を継続していくに当たっての課題は、以下の 3 つに集約できる。

- 運営スタッフ、サポーターの数とバリエーションの増加
- 必要経費の捻出
- 事務局体制の確立

これらの課題へのアプローチは、今の「行田公園で遊ぼう」の範囲だけで考えると、現在携わっている団体やスタッフの頑張りによってしまわざるをえない。しかし、そこで展開される活動が、もっと多くの人と資金を取り込める魅力的なものであれば話は違ってくる。

今回の事業が終わってみて、行田公園そのものが放課後対策の面でも大きな可能性に満ちていることが見えてきた。行田公園は街の中心にあり、開かれた空間であり、様々な人たちの溜まり場になっている。よく来る人たちが、なにげなく顔見知りになり、話しをするようになり、人と人とのつながりができ、それが広がっていく場でもある。そのなかの 10 数人が、今回の事業のなかで、地域の子どもに目を向け、家のなかでゲームばかりをしているのではなく、外で体を使ってぼうという投げかけをした。。外遊びの面白さを知った子どもは、その面白さを口づてに伝えていった。それを見ている周りの子どもたちも何か面白そうだと寄ってきた。その結果、遊びに来る子ども達の人数も確実に増えてきた。この可能性に満ちた取り組みは、まさに放課後サポーターの熟年世代の方々と、集まってくる子どもたちがその手綱を握っている。

今回、スタッフとして関わっていただいた和田東海男さんという方がいる。長らく工業関係の専門誌の編集に関わってこられた方で、60 歳を越えられた今も、現役の編集者である。行田公園で遊ぼうには、竹とんぼのおじさん、凧のおじさんとして登場していただいた。その和田さんが「遊びの楽市、楽座」ということを言っている。「楽」とは規制が緩和されて自由な状態を指し、誰でも遊びを持ち込み、遊びの共通体験の中でまた新しい遊びができていくという状況のことである。定期的にこのような「遊びの市」がたつ場所に行田公園がなれないかという発想である。

また、もっと日常的に面白いことができないかという発想もある。県立行田公園は使用にあたって規制がいっぱいである。火を使えない、木登りはできない、穴が掘れない等々、都市公園では当たり前であるかもしれないが、遊びの幅を狭め、遊びの面白さを小さくしているのも事実である。制約のないところで、自己責任で遊ぶ遊びは、遊び自体が試行錯誤の連続である。プレイパーク、冒険遊び場という名称で全国各地で行われている取り組みや千葉県の「まっ白い広場」事業もこの流れの事業である。行田公園で考えられるコンセプトは「三

世代交流　自由広場」といったものである。三世代とは子どもの世代、その子どもの親の世代、そして熟年世代の 3 つを指す。特に今年の事業で熟年世代の放課後サポーターが誇りを持って役割を果たしていたという事実を、足がかりにしていくことが重要である。

以上の「遊びの楽市、楽座」と「三世代交流　自由広場」の 2 つをクロスして考えると、行田公園での放課後対策の次の展開が見えてくるのではないだろうか。

まず、身近で日常的な生活に根ざした展開である。幼児を連れたお母さん、小学生、熟年世代の方々が、自然に交流する仕掛けをした場所を常設する。ここでは、人と人との関係性を重視する。お母さんが、近くのスーパーマーケットで買い物をする間、熟年世代のサポーターに声をかけて、幼児のお守りをしてもらうような関係性である。3 人が何回も場を同じくしていないとこのような関係性は生まれてこない。しかしそれだけでは不十分で、そこの場所のしつらえが、都市公園の一角であるだけでなく、「三世代交流　自由広場」と銘打たれた場所であり、そこで活動するサポーターも、役割を果たしているという意識を持っていなければならない。お母さんとサポーターとはプライベートな関係でありながら、それがフォーマルな中で結ばれているといったものである。

次は、活動自体の面白さを醸し出す展開である。その場所は、誰でも遊びを持ち込むことができる「遊びの楽市、楽座」である。紙ヒコーキ、竹トンボ、あやとり、草笛などは単純であるがゆえに奥も深い。また、竹馬ややっとこなど大型の遊び道具を作ってもらったら、収納する場所も用意されている。これらは、いつでもできるものであるが、それとは別に定期的に日を決めて、「遊びの市」を開いてもいい。事前に告知を行い、地域の遊び自慢が集まる仕掛けを作るのもおもしろい。大人だけでなく、子どもも遊びを持ち込んでほしい。事実、「行田公園で遊ぼう」では常にポケットに自分のコマを入れていて、どこでもコマ回しをしている子どももいた。こんな子どもが来て、コマ回しの対戦がそこで行われていたら、きっとそこにいる大人も引き込まれるはずである。

日常的には、人と人との関係性を重視した「三世代交流広場」を行田公園の一角に設け、月に 1～2 回「遊びの市」を開くといった展開を目指し、今年に引き続いて今年できたネットワークで来年以降も活動していきたい。

「行田公園で遊ぼう」報告

＜通信からの抜粋＞

■10 月 20 日（土）　初めての「行田公園で遊ぼう」をやりました。

〔　子どもの遊びを見守る放課後サポーターに8人の方が参加　〕
参加してくださった放課後サポーターの方は総勢8名。天気のよい土曜日なので小さい子を連れた親子連れが多い中、オレンジ色の帽子の放課後サポーターが行田公園の東側にチラホラと点在する様子がありました。
放課後サポーターは「公園のベンチにすわる　そこから始まる地域活動」と呼びかけていますが、ベンチに座る人もいれば、公園を歩いて見回ったり、日課のウォーキングをやりながら･･･などと、いろいろな形で参加いただいています。
〔　ドッジビーもやりました　〕
そのうち、「2時間、公園を歩いて見回ってるのもいいけど、子どもと一緒に遊びたくなっちゃったから」と公園に来ている子を誘ってドッジビー（柔らかいフリスビーを球にしてやるドッジボール）をやる姿や、放課後サポーターの方が持ってきた木の笛を見て「今度作り方を教えてもらうんだ」というお子さんの姿も見られました。ドッジビーは知らない子どうしでも楽しくできましたよ。

■10 月 24日（水）15：00～16：40　突然、竹馬・竹とんぼ。

〔　竹馬・竹とんぼ、そして･･･　〕
放課後サポーター集合の午後 2 時 50 分。集合場所近辺では切って来たばかりの青竹の周りに降園途中の幼稚園生とお母さんの人だかりが･･･。
実は放課後サポーターの方が竹馬を作ってくださったのです。子どもたちの真剣な眼差しに囲まれながら竹馬が一つ完成しました。早速「乗りた～い」という声が。お母さんや放課後サポーターの方に教えてもらいながら、練習する姿や「子どもの時以来だなあ」と上手に竹馬に乗る放課後サポーターの方の姿も見られました。
竹馬の近くではもう一人、子どもたち真剣な眼差しに囲まれている放課後サポーターがいました。こちらは竹とんぼを作っているようです。
そのうち何人かが竹とんぼを飛ばし始めました。小学生が「左手を固定して右手をこうやって動かすんだよ」と幼稚園生に飛ばし方を教えていました。
竹とんぼのちょっと向こうでは小学生が鬼ごっこやドッチビーをやる姿もみられました。
そしてその周りを見回る放課後サポーターは、「ちょっとだけ」の飛び入りの方を含めて１０名の方が参加してくださいました。ありがとうございます。
〔　何が起こるか、起こらないか　〕
竹馬や竹とんぼを毎回やっているとは限りません。でも特に何かが企画されていなくても公園に来ると楽しいことがあるんじゃないかな？　外で友だちと遊ぶと楽しいよ。

■10 月 27 日（土）　残念！　台風のため中止。

■10 月 31 日（水）15：00～16：40　小学生が遊べるだけじゃなくて･･･

〔 竹馬・竹とんぼのもう一つの力 〕

前回小学生が遊びに来る前に竹馬に集まって来てくれたのが幼稚園生でしたが、今回はナント！公園に来ていたおじいちゃん!!

ふと気がつくと、数名のおじいさんたちが「昔とった杵柄（きねづか）」とばかりに、竹馬に乗ったり、周りに集まってお話が弾んでいるようでした。この輪は小学生が「竹馬乗っていいですか？」と来るうちに自然となくなっていきましたが、中にいらした女性が「こうやってみんなで話せるのも大事なことね」とおっしゃっていたのが印象的でした（この中から「放課後サポーターをやるよ」とおっしゃってくださる方が増えてくるのが筆者の夢です）。

もう一方の人気は竹とんぼ。「今日は作らないの～？」という声も聞かれるようになってきました。今までベンチで眺めていた大人の方も、子どもたちが飛ばす姿や、竹とんぼを見て「竹とんぼ、子どものころによく作ったな」「今の子どもは小刀が使えないんだって？」と、放課後サポーターに話し掛けて下さる方もいらっしゃいます。

こうして地域の子どもたちへの関心が高まったり、地域の大人同士のつながりができたり、違う世代が関わっていけるようになっていくのかなあと思えるような情景を目の当たりにしました。

〔 もしかして「行田公園で遊ぼう」効果?! かな？ 〕

ちょうど、税務大学の授業でいらしていた先生から「一年を通して学生とカメラを持って行田公園に来ているんですが、一時期公園で遊ぶ人が減っていたようですけど今日は公園で遊んでいる人が多いですね」との言葉をいただきました。お天気がとってもいいからかなと思いつつも、今まであまり目にしなかった上級生が遊ぶ姿も見られたので、ちょっと嬉しい感じがしました。

■11月３日（土）14：00～16：00　子どもの中でも異世代交流

〔 竹馬でゆるやかな交流が 〕

休日ということもあり、たくさんの親子連れで賑わう行田公園。「行田公園で遊ぼう」を始める2時ごろにはまだ小学生の姿もなく、今日はのどかに過ぎていくのかなぁ？　と、ボチボチとドッチビーなどをやる放課後サポーターの姿がありました。

ところが、3時近くになってくると小学生と親御さんなどが「竹馬やらせて下さい」と来て、4つある竹馬の順番待ちが出るほどでした。

落ち着いたころに、放課後サポーターが、そばにいた中学生の女の子に「竹馬やってみる？」と声をかけると、うんとうなずいて竹馬に乗りました。そのお姉さんはあっと言う間に時計台の周りを一周してしまったのです。見ていた小学生の男の子の間で「げ、なんだアレ」。「なんだアレじゃないよ。スゴイって言うんだよ」という言葉が出るくらいの早さです。サポーターが「上手だね、やったことあるんだ」と聞くと「小学生のころにやってました」との答えでした。その話を聞いていたのか、今までちょっとやっては別のことをして・・・という小学生の男の子も、今まで何回も行田公園に遊びに来ていて、何回勧めても一回も竹馬に乗ったことのなかった子も、竹馬に集中して何回も練習していました。二人ともとうとう乗れるようになりました。「あんな風になってみたい」という思いを抱くと力が湧き出るのでしょうか。

また、小学生のやる姿をみてやりたくなった1～2才の赤ちゃんが、お母さんに抱えられるようにして、「イッチニ、イッチニ」と竹馬に乗り、「まさに竹馬（ちくば）の友だよね」。そういう赤ちゃんも含めて、今回は小学生を中心に延べ20人ほどが竹馬に乗っていきました。竹馬は年齢を超えて共有できる体験を与えてくれるようです。

■11月7日（水）15：00～16：40　ここ、何をやってるんですか？

〔 放課後サポーターはいつでも大募集中です 〕

オレンジ色ののぼり旗が立ち、オレンジ色の帽子をかぶった大人が散策し、子どもや大人が竹馬に興じている。

そんな場面に出会った人が犬の散歩の途中に「ここ、何をやってるんですか？」と声をかけてくださる

ようになりました。
「『行田公園で遊ぼう』っていうのをやっているんです。今の小学生って学校から帰るとゲームばっかりで、でも一方でせっかく近くに行田公園っていういい公園があるのに小学生を子どもだけで遊びに出すのは不審者が心配、という声がありました。だったら、会社を退職した方などの地域の方たちのお力を借りて行田公園を見回ろうっていうことになったんです。放課後サポーターって名づけてオレンジ色の帽子をかぶっていただいてます。今日でまだ6回目の始まったばかりの企画なんですけど、文部科学省のモデル事業でもあるんですよ。そうしたら、サポーターさんの中から2時間見守ってるだけってのもナンだからって、竹馬を作ってくださる方がいらして、今、竹馬で盛り上がっているんです。」などとお話させていただくと、「そのサポーターっていうのはどうしたらいいの？」とのご質問。
「放課後サポーターの方には、目立つようにオレンジ色の帽子をかぶっていただいて公園内を散策したりベンチに座って子どもたちを見守っていただいています。『行田公園で遊ぼう』は水曜日が午後3時から、土曜日が午後2時からですから、その10分前に時計台の前に来ていただいてます。事前に『この日は来れるよ』って言っていただけると助かりますが、『今日は時間が空いたから来たよ』っていうのも大歓迎です。」「だったら、今日はできないけど、登録だけしていくわ。ここに名前書けばいいの？」なんいう方も来てくださるようになりました。
本当にありがたいです。楽しみにしてくれる方がちょっとづつでも増えてくるといいなぁと思います。
そうそう、「今日は竹とんぼはやってないんですか？」とのご質問をいつもいただいています。竹とんぼのおじさん
“どこ竹リーダー”は今度11月10日（土）14日（水）に登場の予定です。お楽しみに！

■11月 10 日（土）　雨のため中止。残念！

■11月 14 日（水）　15：00～16：40　公園でふつうに遊ぶ

今回は行田東小の3年生がたくさん来てくれました。でも4つの竹馬は使用中。何をするのかなぁと思っていると「ドッジビー（柔らかいフリスビーを球にしてやるドッジボール）やる～」と集まってきたのが幼稚園生を含めて 10 人。まずはみんなでひもと小枝を使って四角いコートを作ります。そして外野と内野に分け、ドッジビーに当てられた内野の子は当てた外野の子と交代というルールでやりました。やっているうちに入りたくなった幼稚園生がお母さんと一緒に参加したり、ずっと見ていたお母さんがコートの中に入って子どもと一緒に参加したり・・・。
なかなか白熱していました。
ドッチビーが一段落したころ、子どもたちは次の遊びを探します。「あっちで竹とんぼやってる」と走っていくグループや、しっぽ鬼をしたいというグループに分かれて、放課後サポーターが「もう暗くなるから帰ろう」と声をかけるまで遊びは続いていました。
異年齢の子どもが群れになってふつうに遊ぶ姿。公園に行くと誰かがいるから遊べるねといえるような行田公園になったらいいなあと思っています。

■11月 17日（土）　14：00～16：00　公園っていろんなことが生まれる場

いい天気です。近隣の行田東小学校や行田西小学校がオープンスクールや授業参観だったので、今日はどんな形になるのかなぁ～と楽しみにしていました。
前回、遊びに来ていて「楽しかったからまた来るね」と言っていた子たちが放課後サポーターの竹とんぼのおじさん・どこ竹マスターを見つけて竹とんぼにトライしていました。すると「竹とんぼ作りたいな～」との声（今まで何回もいろいろな方から伺っているのですが）。そんな声をたくさんいただくと、やっぱりつい「親子で竹とんぼを作る会をやりたいよね～」となってしまいます。（12月にやる予定となりました。詳細はまだ決まっていませんが、やってみたいという方はちょっとお声をかけてくださいね）。
また、普段は小学校の体育館で練習をしているという、なぎなたをやっている子どもたちがやってきて「竹馬やってもいいですか？」。袴（はかま）姿で竹馬に乗る姿はなかなかのもの。「なぎなたって楽

しいんですけど、あんまり知ってる人がいなんですよね」というような話から「12月1日（土）に、なぎなたの体験会をやりましょう」という話がまとまってしまいました（もちろん、いつものように「行田公園で遊ぼう」もやります）。
公園は「一歩踏み出した楽しみ方の技の交換の場」にもなってしまうんですね。

■11月21日（水）　15:00～16:40　知ってる人が増えてきた?!

小教協の日。3 時前からすでに竹馬や投げ縄で遊ぶ姿が見られました。輪投げを囲む7～8人の1歳・2歳の子どもたち。その周りにはお母さん。思わず「どこかの幼児サークルの方ですか？」と聞くと、「いいえ。上の子が同じ幼稚園の友だちです。 別の友だちからここの話を聞いて今日はみんなで来てみたんです」とのお答えでした。そんなことを聞くと、つい説明してしまいました。「この輪投げ、放課後サポーターの方が作ってくれたんです。下の台は電灯の笠なんですって。輪は使わなくなったベビーカーのタイヤにテープを巻いてるんですよ」。
すると、先週、小学生に、混じってドッジビーをやっていた幼稚園生が寄ってきて「前やったのやりたい」。「ドッジビー楽しかったの？　そう。じゃあ、準備しよう。」と一緒にコートを作って「ドッジビーやる人～」と声をかけると、数人の幼稚園生・小学生が集まり始まりました。しばらくするとちょっと大き目の小学生が「あれ、やりたいんだけど・・・」と来るので「『入れて』ってみたら？入れてくれるよ」。総勢十数人でドッジ-ビーをやりました。
一方、竹馬は「今日初めて乗るんだ！」という男の子三人組が練習していると、通りかかった女性が「今の子は靴を履いて乗るのね。はだしの方が上手になるわよ」。しばらくして見てみるとはだしで練習する子もでていました。
また、どこ竹リーダー（竹とんぼのおじさん）の周りには常連さんと思しき子どもたちが。
だんだん、「行田公園で遊ぼう」が地域の皆さんに伝わってきているねぇと放課後サポーターの皆さん、事務局ともども実感した一日でした。

■11月24日（土）　14:00～16:00　子どもだけでも、親子でも

勤労感謝の日。二十四節気で‘わずかながらも雪が降り始める’といわれる「小雪（しょうせつ）」の日にふさわしく、とても寒い日でした。それでも行田公園には親子連れや子どもたちが来ています。
今日は輪投げが大人気。
幼稚園生から小学3年生くらいの子までが輪投げに並んで順番を待っています。放課後サポーターさんの助言で、年齢によって投げる位置を決めて投げていましたが、一回投げるごとにちょとずつ前に進んでしまう子や何回も何回も並びなおして練習する子。そういう子が何人もいて、笑い声が起こりながらもみんな一所懸命な顔をして集中しています。そういう子どもたちを見ていると「輪がうまく棒にはいれ！輪投げが上達したい」っていう気持ちが強いんだなあって思います。
放課後サポーターさんに「親子だけで公園に来ると、だんだんやることがなくなってしまって間が持たないときがあるんで竹馬なんかがあると助かります」と声をかけて下さった方がいらっしゃいましたが、「行田公園で遊ぼう」にきていただけると、子どもがふだん遊ばない年齢の子どもと混じって遊ぶ姿や、真面目に遊ぶ姿を垣間見ることができる楽しみもあるのかなぁと思います。

■11月28日（水）　15:00～16:30　進化する？ドッジビー

12 月1日に竹とんぼマスター養成講座を控えているためか、放課後サポーターさんがたくさん参加された日でした。
ちょうど、見学にいらした不登校児を対象にしたフリースクールをやっている方が「こんなにいらっしゃるんですか」とおっしゃるほどの数でした。久しぶりに参加されたサポーターさんもいらっしゃいます。
サポーターさんが増えると、皆さんの得意分野も違うのでいつもの活動にもう一味プラスされた動きがでてきます。
「この前やったのやろう！」とドッジビーが大好きな幼稚園生の言葉から、今回もドッジビーが始まり

ました。小学生と幼稚園生の総勢10数名でいつものようにひもで四角くコートを作って始まりました。今までは外野と内野に分かれて当てた外野の子は当たった内野の子と交代、というようにやっていましたが、今回は一人のサポーターさんがずっとついて下さいました。そして、子どもたちの様子を見ながら臨機応変に少しずつルールの工夫をしてくださったので、日が暮れてからも「まだやりたい！」というほど盛り上がりました。竹とんぼマスターだけでなく、ドッジビーリーダーも誕生したようです。
次はベンチに座らせたら絶品の「ベンチ座りのプロ」なんかでてきたらいいなぁ。
　＊お願い＊
ドッジビーが2つあったのですが、11月24日に1つなくなってしまいました。「あそこにあったよ」など、お心あたりの方は是非、教えてください。

■12月1日（土）　14:00～16:00　進化した？ドッジビー

今日は正午から「竹とんぼマスター養成講座」が行われました。講座では、竹とんぼの作り方や作ってみたいという子どもにどうやって作り方や飛ばし方を教えるかも学びました。
子どものころによく作ったよとおっしゃる方に「上手く飛ばせない子どもにこうやって飛ばし方を伝えればいいのかがわかった」とおっしゃってくださったり「小学生のころ、体育館に飾ってあった木製のプロペラをまねて自分で木を削ってプロペラを作ったんだ」と子どものころのお話が出たり、もちろん自分で作った竹とんぼを飛ばしたりと、有意義＆楽しい講座になりました。その竹とんぼ講座の余韻が伝わったのか、12月8日に行われる「小学生親子竹とんぼ教室」に参加したいという数組の親子が「行田公園で遊ぼう」の場でも申し込みをしてくれました。ありがとうございます。まだ数組、参加できます。お申し込みは早めに。
幼児さん用の竹馬も一つ増えて5つになった竹馬はいつも誰かが使っています。ドッジビーはいうと、手違いがあり唯一のドッジビーがなかなか届かず「ドッジビーやりた～い！」「やりた～い!!」という声。「ごめんね、まだ届かないんだ」と謝っていると、ドッジビーリーダーさんがどこからともなく大き目のビーチボールほどの柔らかいボールを2つ持って来てくださいました。ですから今日はドッジビー風のドッジボールの始まりです。幼稚園生・小学生・・・、随分大きい人がいるなあと思っていると、三人組に中学の先生が声をかけています。中学生でした。10歳くらいの歳の差がある子どもたちがみんなで同じ遊びに興じています。なぎなたの体験をしていた子も途中から参加して、ほとんどの子が抜けることもなく4時を過ぎてもドッジボールを楽しんでいました。
いろいろな年齢層の子どもが一緒に遊べる場っていいなぁ。こういう体験を通じて子どもたちの中になにか大切なタネが蒔かれるような気がします。

■12月5日（水）　15:00～16:30　ルールってなんだ？

ひもでコートを作って、内野と外野に分かれて「当てた人は当たった人と交代ね」とルールを確認し、いつものようにドッジビーが始まりました。今回からドッジビーが2つという、いつもの形に戻ったのですがなんだか盛り上がっていません。「なんでかな？」と見てみると、一人の子が2つのドッジビーを自分のところに集めてから投げているので、みんなが上手に逃げてしまうのです。そこで、「とったらすぐ投げないと当たらないよ」と言いながら近づくと、「2つ持ってる人が投げたらナシにしよう」とか「早く投げろよ～」とか言っている子もいました。
また、竹馬に乗っていたのに竹馬は自分のところに置いたまま別の遊びを始めている子もいます。「ほかの人が使えないから使わなくなったらすぐ戻してね～」「え～今使うのに～～」「じゃあ、一回戻しておくから使うときになったら取りに来て」。
一方、輪投げではお母さんと赤ちゃんが輪投げを楽しんでいます。赤ちゃんはお母さんから一個ずつ輪を受け取って棒の近くで「ポンっ」と棒に輪を入れるのを楽しんで、5つある輪を投げ終わったらお母さんの番です。お母さんはちょっと遠くからエイッと棒に向かって輪を投げます（入ったり入らなかったりで大人でも「やったー」「惜しいッ」と興奮してして上手く入らないと、もう一回やりたくなってしまいますよ）。お母さんの番が終わったら赤ちゃん。赤ちゃんの番が終わったらお母さんと、順番でやっています。「順番」というルールを互いに守れれば、赤ちゃんとお母さんが一緒に楽しめます。そんな姿を見ていると、ルールの向こうには人がいるような気がします。力が強い人・弱い人・すばしっこ

い人･のんびり屋さん･･･いろんな人がおんなじもので一緒に楽しめるようにしているのがルールなのかもしれないなぁ。ルールってなんだろう？

■12 月 8 日 (土)　14:00～16:00　親子竹とんぼ教室開催

『行田公園で遊ぼう！』ということで始まった子どもたちのための＜放課後サポート＞活動。その一環として初めての「親子竹とんぼ教室」が開かれました。10 月から、出来合いの竹とんぼで飛ばしの遊びを子どもたちと楽しんでいましたが、「自分でつくりたい」「マイ竹とんぼが欲しい」の声を受けての第１回竹とんぼ教室。お父さん、お母さん、おじいちゃんと子どもたち、合計 15 名が参加しました。

この竹とんぼ教室は、羽根を削らずにローソクの火で羽根をあぶってひねるやり方。ナイフを使わず、小学生でも、安全！安心！よく飛ぶ！竹とんぼづくりができるのが特徴。講師やアシスタントのやさしい説明や、作り方マニュアルを見ながら全員が「マイ竹とんぼ」をゲット。

早速、飛ばしっこ！　なかなか思うように飛ばない子も、練習を重ねると３m、５m と飛ぶようになり、最長は 12m。それぞれ「修了証」に自分の飛行距離を書き込んでもらって、無事終了しました。

親子そろって、行田公園でマイ竹とんぼを飛ばしましょう！

■12 月 12 日 (水)　15:00～16:30　寒風吹きすさぶ中、ドッチビー大盛況

冷たい風が吹きすさぶ肌寒い日でしたが、20 名を超える子どもたちが、1 時間以上もドッチビーで遊びました。ドッチビートは、ドッチボールと同じルールですが、ボールの代わりにフリスビーの円盤のようなものを使います。フェルトでできていて、当てられても痛くありません。また、風の影響も受けやすく、カーブしたり、ブーメランのように戻ってきたりもします。ここでは、その円盤を同時に 2 つ使って遊びます。左右から同時に飛んできたりもします。1 つの円盤を取り合っている子ども、もう一つの円盤から逃げ惑う子ども、ワーワー　キャーキャーの歓声が、初冬の行田公園にこだまし続けました。

また、この日は放課後サポーターの１人がダーツ（マグネット式、自動で点数が出る）を持ってきてくれました。真中に命中すると 200 点が表示されます。こちらも列ができるほどの盛況でした。

■12 月 19 日 (水)　15:00～16:30　寒さなんかへっちゃら

2007 年最後の「行田公園で遊ぼう」の日。今のお気に入りがドッジビーという女の子たちや、いつもドッジビーがお気に入りの幼稚園生が「はやくドッジビーをやりたいね」「もう少し人が集まらなきゃ。竹馬でもやってる？」とメンバーが集まるのを待っています。初めてやって来た三人組は、竹馬や輪投げ、ダーツなど一通り試して遊んでいます。

竹馬の隣では小学生がクリスマス･パーティーを開き、ドッジビーの隣では中学生がサッカーに興じていました。

この日は「この冬の寒さの底」とテレビの気象情報でいうほどで、ふだんはゆったりと見回りボランティアをやって下さっている放課後サポーターの方が「ちょっとマラソンしてきちゃったよ」とおっしゃるほど寒い日でしたが、「行田公園で遊ぼう」に来てくれた子や「行田公園で遊ぼう」のもので遊ぶ以外の子どもたちで、行田公園はいつもより賑わっていました。「遊ぶ場があって遊ぶ友だちがいれば、子どもは元気に外で遊ぶんだよ」と子どもたちに言われているような気がする年の瀬でした。

■1 月 9 日 (土)　15:00～16:30　凧

2008 年最初の「行田公園で遊ぼう」の日。年末からとっても寒い日が続いています。寒いといったら冬。冬といったらお正月。お正月といったら凧。と、今日は放課後サポーターの方２人が２種類の凧を用意してくださいました。一つは削った竹に和紙を貼った昔ながらの奴凧（やっこだこ）。サポーターのＳさんが前日か

ら竹を削っている姿をＡコープの辺りで見かけたとか見ないとか・・・もう一つはあまり風がなくても揚がるという四角にまん丸の穴が空いた凧。でもあまりに風がなくて上手く揚がりません。それでも待ち構えていた園児さんが２～３人のグループになって走り回って凧を揚げていました。
小学生はというと、やっぱりドッジビー。１０人くらいの子どもがこの寒い季節でも汗をかくほど遊んでいました。

■1 月 19 日 (土)　14:00～16:00　凧揚げをしての発見

寒風すさぶ冬の日、まずはじめに集まったのは、ドッチビー目当ての 10 数人の子どもたち。放課後サポーターのおじさんが、ラインを引いてくれるのも待ちきれず、ディスクの投げっこをしていました。これから延々1 時間半ドッチビーをし続けた子どもも 6 人いました。さすが、子どもは風の子です。
この日は、風は冷たいものの、強さは凧揚げに最適！と思われました。揚げる凧は、前回と同じ放課後サポーターの手づくりです。いいところまで揚がるのですが安定しません。風向きがすぐに変わってしまいます。行田公園の東側は、高い木に囲まれていて、真ん中の広場は風が舞っていたのでした。凧揚げをしての発見でした。

■特別企画　1 月 19 日 (土)　13:00～14:00　親子竹とんぼ教室

第２回小学生「親子竹とんぼ教室」参加者は親子５組 12 名。1 月 19 日（土）午後２時、外は大寒を前にした厳しい寒さのため、行田ジャングルクラブの室内で教室は開かれました。参加の子供たちは低学年の小学２、３年生と親御さん。
　まず、安全のための注意説明（キリ、ローソク、瞬間接着剤の使い方）から始まったためか、みんな真顔でちょっと緊張気味。でも「上手に作れば、このように飛びますよ！」の講師のデモフライトを見て、やる気満々の様子。
　スタートの「羽根の中心点を正確に決めないと、飛ぶ竹とんぼになりません」の説明に、定規を片手にみな真剣。堅い竹にキリで穴を明けるのに多少手こずりながらも、つづいて羽根の四隅の角を丸くする。軸（竹串）を差し込んでみてバランスを見る。重い方の羽根を紙ヤスリで削ってバランスをとる。大切なところだ。気が付いたら１時間経っている。　次はローソクの火で羽根をあぶってひねる工程。この教室はナイフを使わない、ひねり竹とんぼが特徴。安全だ！
　だが低学年のためかローソクの火におっかなビックリ、ひねる力も多少要る。終了後のアンケートでも「火であぶるところ」「ひねるところ」が難しかったの感想があった。それでも、一人でできないところは親子の共同作業でクリア。手づくり親子教室ならではのいいところだ。再び軸を差して瞬間接着剤で固定、これで「よく飛ぶ竹とんぼ」の完成だ！！！
　一同そろって行田公園に移動して「飛ばしっこ」。飛ばすコツの説明と練習の後、飛距離を競う。修了証に自分の飛距離を記入して無事終了となりました。「刃物がなくつくれて安心でした」「みんなといっしょにできたこと」今回の教室のよかったこと、の声でした。次回も、

乞うご期待です。

■1 月 23 日 (水)　残念！　雨のため中止

■1 月 26 日 (土)　14:00～16:00　親子三代ドッジビー

１月２６日の「行田公園で遊ぼう」は盛況で５０~６０人の方が参加されました。
公園に来ていたお父さんが「これ大人もやっていいんですか」とドッジビーに興味をもってくださったものの、一緒に来ていた４～５才のお子さんはあまり関心がありません。そこでサポーター二人とお父さんでドッジビーをやり始めてみると、子どもたちがどんどん増え、また親子３世代で公園に遊びに来ていた方（おじいちゃんやおばあちゃんお父さんお孫さん）も参加されました。じゃんけんで組み分けをしたり、大人対子どもで組み分けをしたり・・・（ドッジビーを２つ使ってやると大人対子どもでも互角で遊べます。大人は早く勝負をつけないと疲れてしまい負けてしまいますよ）。
もちろん竹馬も人気で幼児用・上級者用含めての５基すべてが出払ってしまうことも多く、また、上級者用が残っていたとしても大人の方がチャレンジされることも多い日でした。
こんな風に皆さんが楽しんで下さっているのですが、平日はもう少し子どもが遊びに来てくれないかな～と感じることもあり、先週から「２月２０日の小教協の日に１００人で遊ぼう」をテーマとして放課後サポーターさん、事務局員ともに土曜日の「行田公園で遊ぼう」のあと集まって、みんなで頭を絞っています。
今でているアイディアはいろいろ。どんな遊びをしようか？「大ムカデ」「大縄跳び」「１００人でしっぽ取り」「１００人で手つなぎ鬼」・・・
「１００人みんなで遊べる遊びやグループで遊べる遊びってどんなものがあるのかいろんな人に聞いてみたいからアンケートをやってみよう」「１００人で遊ぶんだったらもっとサポーターの人がいてくれたほうがいいから、どうやって集めようか？」・・・いろいろと考えています。皆さんからのご意見、大歓迎です！
また、アンケートにも是非ご協力ください。

■2 月 2 日 (土)　14:00～16:00　ドッジビーリーダー

先週の土曜日とはうって変わって寒い日でした。始めは親子連れの姿もまばらでしたが、３時を過ぎたころに元気良く走ってくる女の子二人の姿。ぶつからんばかりの間際で止まり「ドッジビーやりに来た～～」。小さい子も含めてメンバーを募りますが、まだ足りないのか放課後サポーターのＥさんを誘って始まりました。
　Ｅさんは主としてドッジビーを担当しています。初めて放課後サポーターとして参加されたときにドッジビーに出会い、帰宅後には早速ドッジビーのルールなどを調べて「こんなものがあるのか」と驚かれたそうです。その後、子どもたちがコートを作りやすいようにと工夫した道具を作ったり、コートを作るひもの改良を考えたりして下さいました。また、ドッジビーが行方不明になってしまって遊べなくなってしまった時には、どこかに行ったかと思うと大きなボールを２つ抱えて戻ってきて、お陰で集まっていた子どもたちはすぐに遊び始めることができました。それだけでなく子ども用のダンベルやダーツを持ってきてくれたり、ダーツの励みになるようにと賞品に国産の安全な飴を用意してくれたりと毎回と言っていいほど、いろいろと工夫をしています。また、「放課後サポーターがもっと増えるように」と、プラカードとチラシを持ってＡコープの前に立ち宣伝しましょうと提案し、実行してくださったりもしています。
そんなＥさんはどんな思いで放課後サポーターとして関わって下さっているのだろうと思っていたら、「100 人でしっぽとり」の話し合いの時にこんなことをおっしゃっていました。
「私は今の子どもは外で遊ぶことが大切だと思っているんです。とにかく外に出てきて遊んでもらう。そのために飴を賞品にしたりもしています。もちろんご家庭によっては子どもに飴を食べさせたくないというお家もあると思うので、『お母さんがだめだって言ったらあげられないよ』っていいながら渡しています。竹馬や竹とんぼの手作りのもので遊ぶこともとっても大

切だと思うのですが､私はとにかく子どもが外で遊んでくれることを一番に考えようと思っています。そういう考えがだめだったらいつでもクビにしてください！
その言葉を聞いて事務局の一人はこう答えていました。「ここでは皆さんの思いをいろんな形で実現していけたらいいと思っています。ですから何がだめっていうのはあんまり考えていません。子どもたちにいっぱい遊んで欲しいという、色んな方の色んな思いが集まっていくことで豊かになっていくと思っています」。

■2 月 6 日 (水)　残念！雪のため中止。

■2 月 9 日 (土)　三連休の場合は、お休みです。

「行田公園で遊ぼう」は、２月末まで、毎週水曜日と土曜日に開催です。ただし、土日月と三連休になる土曜日はお休みです。
それを忘れたのか、常連サポーターのＳさんが来られました。
「今日は、遊ばないのー」「すいません、今日はお休みです。」「じゃあ、またね。」
なんか、自然体でいい感じ。

■2 月 13 日 (水) は中止します。

２月１２日に千葉の女子小学生に対する犯罪予告の書き込みが、匿名掲示板にありました。
各小学校は、２月１３日から１５日まで集団下校などを行います。残念ですが、「行田公園」で遊ぼうも中止します。

■2 月 16 日 (土)　長縄跳びに挑戦。

中止が続いたため、２週間ぶりの「行田公園で遊ぼう」です。
この日初めて長縄を持っていきました。長縄跳びは、飛ぶ方と回すほうの息が合っていないとすぐ引っかかってしまいます。息をあわせてやる遊びです。この日は、女の子 3 人が跳んでいました。
また、この日は、茨城県のつくば市からも子どもが来ていました。放課後サポーターの方々が記入する名簿に、間違って子どもが書いたのでわかったのですが、これまでも、遠くから来ている子どももいました。行田公園は、他の用事でたまたま近くに来た家族が、よさそうなところだなと 1 回は寄ってみる場所になっているようです。

■2 月 20 日 (水)　小教協で１4時スタート。

今日は小教協で、1 時過ぎには下校になります。そこで、「行田公園で遊ぼう」は、いつもの水曜日より 1 時間早く、14 時にスタートしました。
集まっていた子ども全員で、しっぽとりをしました。ピンク色のすずらんテープを、輪になったゴムひもで腰のところに止めて､そのピンク色のすずらんテープのしっぽを取り合いました。単純なゲームですが、夢中になって人のしっぽを追いかけていると、不意に自分のしっぽをとられたり、相手に後ろを見せまいと、後ずさりで走ったりと、30 人近くの子どもたちで大いに盛り上がりました。
14 時 30 分からは通常の竹馬、竹とんぼ、ドッチビー、コマを行いました。

■2 月 23 日 (土)　強風･突風、黄砂で中断。

午前中までは、天気もよくのどかな日和でしたが、昼過ぎから風が強くなってきました。
強風にも負けず、14 時には恒例のドッチビーがはじまりました。ディスクは、が強風で流されたり、また自分のところに戻ってきてしまったり、いつもには見られない、面白い動きをしていました。
しかし、15 時近くになると、ますます風が強まり、この日はやむなく撤収しました。撤収

して道具を運んでいるときは、突風も吹き、土が舞い上がり、あたりが黄色のもやに包まれているようでした。

■2 月 27 日 (水)　ドッチビー行田公園ルール

「行田公園で遊ぼう」には、根強いドッチビーファンが 5,6 人います。「ドッチビーやる」といって毎回来る子どもたちです。行田公園版ドッチビーのルールも決まってきました。まず、ドッチビーのディスクは 2 つ同時に使います。１つの場合よりも格段に緊迫感があります。また、少人数の場合は、外野はつけません。内野同士でぶつけ合います。人数が多くなってくると、外野がつきます。根強いドッチビーファンが、遊びの中で編み出したルールです。

実施プログラム報告　サマーキャンプ

日時	2007 年 8 月 18 日（土）～20 日（月）
場所	青野原キャンプ場
参加人数	子ども 40 人　大人 42 人
指導者数	10 人
実施団体	ジャングルクラブ、ジャングルクラブ OB 会 行田西放課後ルーム父母会、行田東放課後ルーム父母会、法典西放課後ルーム父母会

活動スケジュールと取り組み

別添、「キャンプのしおり」参照

振り返り

・ ジャングルクラブと放課後ルームの子どもたちの中には、この日始めて出会った子どももいたが、協力して準備を進める中で、すぐに打ち解けていた。OB の中高生も小学生の手助けの行動を自主的に行うなど、異年齢集団の良さが随所に見られた。
・ 保護者も、子どもの自主性を尊重しつつ、適切な介助ができたと思う。
・ ジャングルのキャンプは、親と子どもが別の班で生活を行う。親も子どもと少し距離を置くことで、子どもの成長の度合いを確認できた。

今後の取り組み

キャンプは、日常生活を離れて自然環境の中で集団で生活する。キャンプの場面では協力の原理が基本となる。人を蹴落としたり、人に勝つ必要もなく、人といかに協力できるかが最も重視される。

与えられた役割を責任をもって 1 人で行ったり、1 人で困難な時は仲間に手伝ってもらい、協力してやり遂げなければならない場面がしばしばある。これらの過程を通して、仲間との相互理解を深め、集団の一員として認められるための社会性を身につけていくことができる。

こうした、キャンプの優れた点を継続して取り組むために、今後も年３回のキャンプに取り組んで行きたい。

食事つくり

保護者・中学生以上用

２００７年度ジャングルクラブ

第２８回サマーキャンプのしおり

日　時：平成１９年８月１８日（土）～８月２０日（月）　雨天決行

場　所：青野原キャンプ場　TEL：０４２－７８７－１３６０

神奈川県相模原市津久井町青野原９３１　ＪＲ中央線相模湖駅から貸切バス　３０分

中央道相模湖東出口から３０分　道志川の河畔

参加者：

小学生	中学～20 歳	大人(男)	大人(女)	幼児	合計
29	5	22	20	6	82

救急病院：土曜日(16:00 まで)　森田病院　042-784-4114(三ヶ木バスターミナル近く)

土曜日(19:00～21:30) 国保青根診療所　042-787-2834(国道 413 を西に 9km)

日曜日　相模原西メディカルセンター　042-784-5199(国道 413 を東に 7km)

[注意事項]

① 指定された区域外には絶対に立ち入らない。

（遊びの時間等では危険区域、保安要員の数により、区域を指定します。）

② ごみは分別して決められた場所に捨てる。

③ 売店その他における飲食物購入は一切禁止です。

④ ゲームボーイ等は持ってこない。

児童の目標：自然に親しみ大いに遊ぼう。

班の取組みをもとにして、お互いを思いやり、励ましあい、認めあえる関係を育てよう。

父母の目標：児童の安全を第一に、全児童の親としての意識で参加する。

全員で仕事を分担し、楽しく親睦を深める。

往復路移動中必要のない荷物は、まとめてトラックで輸送します。

リュック、バッグ等に荷物を積めて、以下の要領で持ち込み回収をお願いします。

持込：８／17（金）19：00～19：30　遅れる場合は連絡を。

引取：８／20（月）19：00 まで

どちらもジャングルクラブで行います。(行田団地商店街: 047-411-7844)

※　荷物には必ず荷札等により氏名を明記してください。

壊れやすいものはタオルでくるむなどしてください。

集合場所：８／18（土）8：00

都営新宿線本八幡駅中央コンコース（改札の外）

持ち物：最後のページ

当日急遽不参加、遅刻しそうな場合　090-9158-5313　安次富　又は

090-8596-2935　樋口まで

団体切符で行動します。遅刻した場合は、初乗り運賃の切符を購入し、追いかけてください。雨天決行です。

第1日目　　8／18（土）

8：00 8：20	集合 ホームへ移動	トイレを済ませて集合 JR本八幡駅ビルに トイレあり	P	父：児童、大人の人数を確認し、安次富氏まで報告する。 母には使い捨てカメラを配布します。（照屋氏担当）
8：27～8：42 8：54～9：33	本八幡⇒大島 大島⇒調布		親	集合からキャンプ場までは班行動 途中下車でトイレを利用する場合も、班ごとに行動 団体キップですので、駅への出入りは全員一緒です。 トイレ休憩用に20分の余裕があります。
9：45～10：17 10：05～10：37	調布⇒高尾 京王八王子行きには乗らない。 乗ってしまったら、北野で乗り換え	高尾山口行き		全父母は駅ホーム車中での誘導と安全確保
10：58～11：07 (11:20～11:29) 11：45	高尾～相模湖 ←この電車になった場合は、開村式を昼食後に行う。 キャンプ場到着	貸切バス		必要に応じて手をつなぐ、つながせる ※トラック　ﾔﾏｻﾞｷｼｮｯﾌﾟ梶野沢店で昼食を積む トラックが遅れた場合バスに積む
12：00	開村式			全員参加
12：15	昼食	おにぎり パックお茶		
12：45	荷物をﾊﾟﾝｶﾞﾛｰに運搬	トラック便荷物	P P 父 親	荷物の整理補助、体調チェック（必要に応じ検温） 川遊びの準備補助 自分の荷物運搬後、装備品のセッティング（雨天施設） P以外の父母ミーティング
13：15	遊びの時間 川あそび	班行動ではありません	係 係 親	3人　山・滝の下見（13：30～16：00） 2人　全棟に物干しロープ設営 他全員：　川遊びの要員　見張り　事故防止
	きがえ		母 父 P	幼児連れ母他数名：14：30～15：00 ﾊﾟﾝｶﾞﾛｰで幼児の保育（休養）とおやつの準備を分担 この時間帯、あそびの要員減につき注意 おやつの場所設営（撤収） 着替えの補助
15：00	おやつ ﾊﾟﾝｶﾞﾛｰですごす	休養		
16：00	夕食づくり	児童主体	P 母 父 係 係 父	夕食づくり補助 〃 数人　かまど番 たいまつ作製 きもだめし下見 食事場所設営（撤収）
17：30	夕食 後片付け	カレーライス		かまど番父今日の経験を明日に生かしてください
19：00	きもだめし		P	着替え補助　蚊取り線香点火(電池式に変更)
20：30	就寝準備	はみがき、トイレ	P	就寝準備の補助、消灯
21：00 XX　時	消灯		親 親	時々交代で見回り 父母会懇親会　希望者は入浴できます。

☆　往復路は班単位で行動しますが、幼児連れ母組は一つのグループをつくって行動します。
（班割り参照）

第2日目　8／19（日）

6:00	起床 あさのつどい		P 親 母 父	児童の体調チェック（必要に応じ検温） あさのつどい後ミーティング 朝食準備 昼食のおにぎり用ご飯炊き　食事場所設営
7:00	朝食 昼のおにぎりつくり あそびの時間 ①山（9:00～15:30） ②滝（9:30～12:30）	サンドイッチ 児童は自分の分 班行動ではありません	母 親	おにぎりつくり補助、班の父母幼児分もつくる 全員あそびの要員（配置は希望と必要人数を考慮） 山組荷物（着衣） 昼食　のみもの　タオル　雨具　長袖着 （長ズボン　シャツ　ぼうし　運動靴） 出発前　児童のもちもの確認 あそびの要員　見張り　誘導　事故防止
12:00	昼食	おにぎり		
13:00	休養（昼寝）	班行動ではありません		
14:00	あそびの時間		母 父 P	幼児連れ母:15:00～15:30 ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰでの幼児の保育（休養）とおやつの準備を分担 この時間帯、あそびの要員減につき注意 おやつの場所設営 着替えの補助
15:30	おやつ			
16:00	ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰですごす ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰの練習		係 父	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰの準備 夕食づくり
17:00	夕食 後片付け			
18:00	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰの準備		P P	児童の長袖、長ズボンへの着替えの補助 蚊取り線香点火
19:00 20:30 21:00 XX　時	キャンプファイヤー 就寝準備 消灯	 はみがき、トイレ	 P 親 親	 就寝準備の補助、消灯 時々交代で見回り 反省会　　希望者は入浴できます。

第3日目　8／20（月）

7:00	起床 あさのつどい		P 親	児童の体調チェック（必要に応じ検温） あさのつどい後ミーティング
8:00	朝食（パックドック）		母 親	朝食準備 児童がライターを使うので注意
9:00	撤収準備	荷物整理	P 親 父	荷物整理補助 荷物整理、全ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ清掃 借用品返却
10:00	閉村式			装備班（トラック）は荷物の最終確認後出発
10:30 11:35～12:52 11:55～13:12	ｷｬﾝﾌﾟ場⇒橋本 橋本⇒本八幡	貸し切りバス 直通 直通	P 親	父:班の児童、大人の人数を確認し、照屋氏まで報告する。 移動は班行動です 途中下車でトイレを利用する場合も、班ごとに行動 全父母は駅ホーム車中での誘導と安全確保 必要に応じて手をつなぐ、つながせる 各班に水分補給係 団体キップですので、駅への出入りは全員一緒です。
13:00頃	解散	都営地下鉄本八幡		トラックと連絡をとり荷物の到着時刻を報告

おむかえの方へ:解散予定時刻の確認　　０９０－９１５８－５３１３　安次富
輸送依頼荷物の引き取り:ジャングルクラブに当日１９:００までにお願いします。

低学年

1班

学年	名前
東小1	市川かずま
東小1	篠塚さくら
西小1	川地ゆり
西小2	小野こうき(帰り車)
西小2	竹田りんたろう
西小3	條だいき
流小3	渡辺うみか
7	

	父	母
ペアレント	小田倉	生島
	條 安次富	照屋+1 安次富+2 後藤+1
日曜帰り	條母	中山
	3	5

	子ども	大人
行き	7	9
帰り	6	7

リーダー班　4年生以上

A班　往復の行動はA班＋C班＋東田、B班＋D班＋栗原

学年	名前
東4	田中まい
東4	河井ななみ
東4	後藤ゆうか
東4	中山なつみ
西5	生島けいこ
流5	渡辺こなつ
6	

	父	母
ペアレント	なし	小川
		市川 小野(車)
日曜帰り		大矢(車)
日曜帰り		川地
		5

	子ども	大人
行き	6	3
帰り	6	2

行き	子ども	大人
本八幡	28	38
小野車		2
大矢車	1	1
佐藤車		3
トラック		2
電車		1
合計	29	47

帰り	子ども	大人
橋本	27	29
小野車	2	4
大矢車		4
佐藤車		5
タクシー		3
トラック		2
合計	29	47

行き

大矢車	大矢母、さおり
佐藤車	佐藤父、優真、広野
小野車	小野父、小野母+1

日曜帰り	大矢車	大矢父、大矢母、條母、白井	4
	佐藤車	佐藤父、吉野父、内山、和田、佐藤優真	5
	小野車	中山、川地	4
	タクシー	田中父、田中このみ、藤田（三ヶ木からバスで橋本）	3

リーダー班　4年生以上　往復の行動はA班＋C班＋東田、B班＋D班＋栗原

B班

学年	名前
東4	市川なみ
東4	魚取りょう
東4	田村りいな
東4	鈴木りな
西6	川地みき
葛6	大矢さおり
6	

	父	母
ペアレント	なし	渡辺
		篠塚 田中麻衣
		3

	子ども	大人
行き	5	3
帰り	6	3

C班

学年	名前
東4	小田倉むつき
西4	小野みずき(帰り車)
法4	照屋かいと
法4	安次富ひろき
西5	小川ひろき
5	

	父	母
ペアレント	竹田	なし
日曜帰り	渡辺	
	2	

	子ども	大人
行き	5	1
帰り	4	1

D班

学年	名前
西4	尾形あたむ
西4	鈴木はるや
西4	川地たつき
法4	安次富ゆうき
西6	條げんき
5	

	父	母
ペアレン	照屋	なし
日曜帰り	小野(車) 大矢(車)	
	3	

	子ども	大人
行き	5	2
帰り	5	1

スーパーリーダー班

D班

学年	名前
中3	佐藤ゆうま(車日曜)
高1	田中ひかる
高2	吉野まさと
	広野はるき
4	

	父	母
ﾍﾟｱﾚﾝﾄ	白井拓生	
	稲垣 鎌倉(トラッ	田中 稲垣
日曜帰り	田中 内山 白井	
6		2

	子ども	大人
行き		10
帰り		7

E班

学年	名前
高3	田中なつみ
	田中このみ　日曜帰り
	吉本朋世
	藤田希美代　日曜帰り
4	

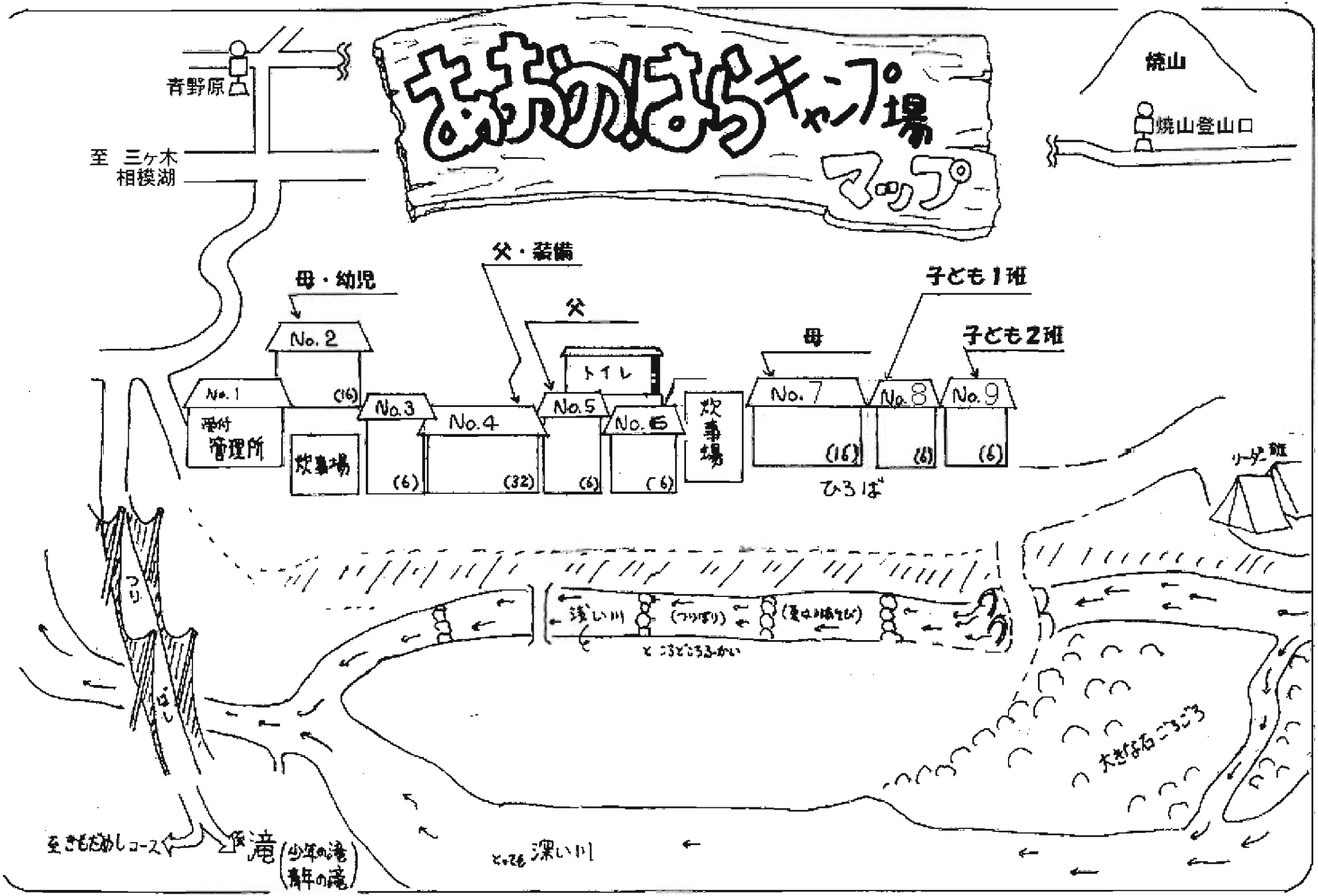
	父	母
ﾍﾟｱﾚﾝﾄ		稲垣未代
	広野(行き車) 志賀 相川(トラック)	
日曜帰り	佐藤(車) 吉野 和田	
6		1

	子ども	大人
行き		7
帰り		5

部屋割り

NO.1	事務所
NO.2(16)	母･幼児、OB　後藤、照屋、安次富、小野、稲垣、田中
NO.3(6)	OB女子　5人
NO.4(32)	父　18名
NO.5(6)	OB男子　4人
NO.6(6)	指導員
NO.8(16)	母　篠塚、市川、田中、中山、川地、生島、小川、渡辺、條
NO.9(6)	子ども1
NO.10(6)	子ども1

ちゃちゃのしらキャンプ場マップ



☆重要☆

サマーキャンプにむけて　出発当日までの確認事項

ジャングルバンダナを団体行動の目印にします。ご持参下さい。

大人の持ち物

	サマーキャンプのしおり		サンダル（古い運動靴）川あそび用
	健康保険証		ビニール袋（エチケット、食器他）
	着替え		食器（茶碗、皿、コップ、はし、スプーン）
	雨具（合羽、かさ）		デイバッグ等（山登り、ハイキング用）
	水着		水筒
	帽子		タオル、ハンカチ、ちりがみ
	洗面用具		牛乳パック　　（世帯参加人数×3以上）
	懐中電灯		体温計（ペアレントの方お願いします）

子どもの持ち物（トラックで輸送したほうがよいもの）

	着替え　長袖、長ズボン 下着、シャツ、靴下 ズボン、ねまきなど		食器（茶碗、皿、コップ、はし、スプーン）
			ねぶくろ（毛布）　4年生以上
			懐中電灯
	水着		洗面用具
	バスタオル、タオル		川あそび用の靴（運動靴など、サンダルは×）

子どもの持ち物（8/18のリュックの中：携帯電話、ゲームなどは持参しないこと

	しおり		折りたたみ傘
	エチケット袋		かっぱ
	ハンカチ、ティッシュペーパー		水筒
	あせふきタオル		

★当日は、はきなれた靴で、ぼうしをかぶってくる。手には何ももたない

★健康保険証

親子で参加家庭	保険証を親が管理してください。
児童のみ参加家庭 （親途中帰り）	小学生は写しを事前に集めます。 緊急時の連絡先を記入しておいてください。 中学生以上は写しを自分で管理してください

大人のねぶくろについて

寝具は敷布団と毛布を借ります。

これだけで十分ですが、ねぶくろがあればまたキャンプ気分にひたれます。

虫除けスプレーは実行委員会で用意します。自由に使えるようにしておきます。

集合場所まで親子で行けない家庭は、近所の参加家庭と相談して
一緒に集合するようにしてください。調整つかない場合実行委員会まで連絡ください

乗り換え案内

集合　8：00　都営地下鉄本八幡駅　中央コンコース

京成の場合　　京成八幡駅下車　進行方向へ

京成船橋	海神	京成西船	京成八幡
07：30	07：32	07：34	07：42

ＪＲの場合　　ＪＲ本八幡駅下車　進行方向へ

船橋	西船橋	下総中山	本八幡
07：42	07：45	07：48	07：50

地下鉄本八幡駅から大島へ。大島始発に乗り換え。

本八幡	大島着	大島発	調布	高尾	相模湖	備考
8:27	8:42					大島始発へ乗り換え
		8:54	9:33			
			9:45	10:17		
		9:14	9:53			
			10:05	10:37		
			10:15	10:47		京王八王子行き　北野で乗り換え
				10:58	11:07	

↑この電車に乗り遅れたら、安次富氏に連絡を

０９０－９１５８－５３１３

090-8596-2935　樋口

荷物について

移動中に必要のない荷物は、トラックで輸送します。

荷物の受け渡し場所

ジャングルクラブ

行田団地商店街

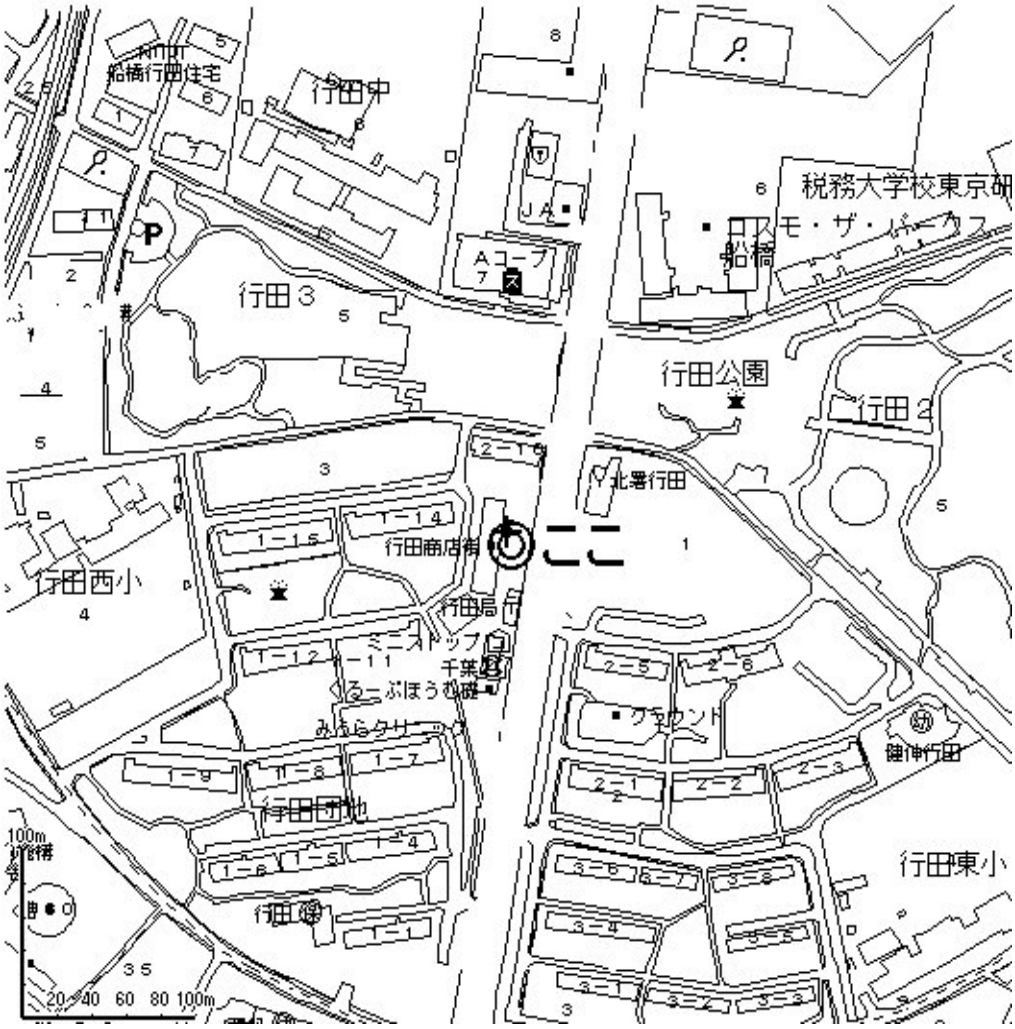
047-411-7844

8/17(金)

19：00～19：30

8/20(月)

19：00まで



実施プログラム報告　セミ脱皮観察会

日時	2007 年 8 月 25 日（土）16 時～18 時
場所	行田西公園（千葉県船橋市）
参加者数	小学生 55 名　保護者 20 名
指導者数	11 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東/行田西/西海神小放課後ルーム父母会　船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

16:00 行田西公園に集合

16:00 セミの種類や特徴について説明をうける

16:20 各自がせみを探しにいく　つかまえたせみの種類を調べる。

18:00 終了

活動内容と参加者の様子

行田西公園の南側の木陰に集合しました。早速講師の朝倉氏よりせみの種類や特徴・居場所について説明を受けました。子どもたちが捕まえたせみは自分たち自身で朝倉さんが用意した見本と見比べせみの種類を調べることにより何と言う名前のせみか覚えるという方法です。すでに陽は西に傾き始めていましたがせみはいっそうにぎやかに鳴いています。ひときは鳴き声がにぎやかな木の周りには子どもたちもたくさん集まっています。網を使わず手で捕まえるためみんな緊張した面持ちでした。なかなかこつがつかめず、逃がしてしまったり、また種類によっては逃げ足が速くさっと鳴き止み、いる場所がわからなくなったり、気配を感じ飛んでいってしまいなかなか捕まえられません。主に捕まえられたのはアブラゼミが多かったようです。自分が捕まえたせみが珍しいものか、また初めて捕まえたものかどうか見本と見比べ一喜一憂していました。朝倉さんから子どもたちが捕まえたせみと見本を見ながら何というせみか特徴や類似している点を丁寧に説明して頂きました。

夜になりようやくせみの脱皮が始まりました。夜もまだ早い時間のせいもあり木の根元や土から出てきたばかりのものが多かったです。せみの脱皮は子どもだけでなく親にとっても初めて見る方が多く、夢中になりあちこちから歓声があがっていました。さなぎからでたばかりのせみは羽がまだ濡れており、元気よく鳴いているせみとまったく違うようであり、参加者は子どもも大人も興味深く観察していました。

振り返り

最初はとまどいをみせていた子どもたちもせみの捕まえるコツを覚えると色々な種類を捕まえようと夢中になり講習時間もあっという間に過ぎました。親は最初遠巻きに子どもたちの様子を見ていましたが徐々に自ら参加する親もいました。せみをつかまえるのは何年かぶりという方も多かったとおもいますが、子ども時代に培った腕は衰えず上手に捕まえられるお父さんもいました。日頃、自然と直にふれる機会は少ないですが、自分の手でせみを捕まえることは良い経験ではないでしょうか。捕まえたせみをすぐに講師の適切な助言を受け、せみの種類がわかることにより子どもたちも探究心を持って、せみとりができたのではないでしょうか。せみの脱皮についてはテレビや図鑑等で見た人も多かったとようですが、実際に見たことのある人は少なく貴重な体験だったと思います。また近所でありますが、夜公園に出かけるのは昨今の情勢から相当の注意が必要ですが、このような機会を持つことにより、安心して観察することができました。

実施プログラム報告　お泊会

日時	2007 年 8 月 25 日（土）19 時～8 月 26 日（日）9 時
場所	行田ジャングルクラブ学童保育施設（千葉県船橋市）
参加者数	小学生 14 名
指導者数	6 名
実施団体	行田ジャングルクラブ

活動スケジュール

19:00　集合
19:30　パジャマに着替えて、銭湯へ。
20:30　コンビニで、おやつの買い物。
21:00　就寝
06:00　起床
06:30　ラジオ体操
07:00　朝食
08:30　振り返りの会議
09:00　解散

活動内容と参加者の様子

初めてのお泊会、興奮気味に集まる子どもたち。まずは、銭湯へ。銭湯が始めての子どもがほとんどで、もの珍しく中へ。でも健康ランド的な入浴施設には、皆行ったことがあるようで、「〇〇の里の方が良かったのに」の声に、指導員はがっかり。

帰りは、一人 105 円以内の約束で、湯上りのおやつを一人づつ購入。これもなかなか決まらず、大騒ぎに。

翌朝の朝食は、キャンプの直後でもあり、皆効率的に動いていました。

実施プログラム報告　デイキャンプ

日時	2007 年 10 月 13 日（土）9 時～17 時
場所	いちかわ市民キャンプ場（千葉県市川市柏井２-９９２-１）
参加者数	小学生 22 名　保護者 17 名
指導者数	10 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東/行田西/西海神小放課後ルーム父母会　船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

9:00 行田団地商店街　バス停集合　路線バスで藤原 6 丁目へ
10:00 開村式
10:10 ネイチャーゲーム　木の実や葉っぱを使って遊ぶ　（保護者は昼食づくり）
12:00 昼食
13:00 焼芋づくり　落ち葉を燃やしてつくる
14:00 王取り（集団ゲーム）
15:00 おやつ（焼芋）
16:00 閉村式　路線バスで行田団地へ
17:00 行田団地商店街　バス停で解散

活動内容と参加者の様子

集合は、行田団地のバス停に集合する組と直接いちかわ市民キャンプ場に行く組の２つ。キャンプ場についたら開村式。「キャンプだホイ」をみんなで歌う。條さんがジャングルオリジナル振り付けをして笑わせる。
午前中は、ネイチャーゲームを行った。リスの冬支度というゲーム。まず、キャンプ場内の森から様々な木の実を集め、クループで種類の多さを競う。次に木の実を定型茶封筒にいれ、リスのように落ち葉の下などに隠し見つけられなかった個数が多いグループが勝つというゲーム。大勢で探せば見つかるもので、10 種類を越す木の実を拾ってきていた。
昼は、保護者がつくったトン汁とおにぎりを食べた。
午後は、キャンプ場中央のキャンプファイヤーサークルを使って、焼いもをつくった。子ども達が大量の落ち葉を集めてきては、威勢良く、火の中に投げ入れていた。焼きあがるまでの間、2 グループに分かれて、じゃんけんをしながら王様を取り合う鬼ごっこ（王取り）で遊び、思いっきり体を動かしお腹をすかせた後、焼いもを食べて終了した。

振り返り

保護者の参加は、サマーキャンプから引き続き参加した方と今回初めてだった方が半々だったが、それぞれが声を掛け合い、役割を分担して、昼食づくりなどを行っていた。地域を基盤にして、複数の団体に属する保護者が協働する機会はほとんどない。そういった上では貴重な機会であった。ただし、金杉の田んぼで自分達で育て収穫した新米をおにぎりにして食べる予定であったが、天候の関係で脱穀が遅れたため、籾摺りが間に合わず、自分達でつくったお米を食べられなかったのは残念だった。

実施プログラム報告　遠足（葛西臨海水族館）

日時	2007 年 10 月 13 日（土）
場所	葛西臨海水族館
参加者数	小学生 10 名
指導者数	10 名
実施団体	キッズハウス COCO

活動スケジュール

8:20　ＪＲ船橋駅　集合
8:55　ＪＲ船橋駅　乗車
9:45　葛西臨海水族館　着
10:00 館内見学
11:30 昼食
13:20 葛西臨海水族館 入口集合
13:49JR 葛西臨海公園駅　乗車
14:16 JR 船橋駅　着
14:30 解散

活動内容と参加者の様子

電車を乗り継ぎ　葛西臨海公園へ。水族館では皆で一緒にじっくりと珍しい海の生き物たちを見学。10 時 30 分からはじまるペンギンのえさやりショーでは、身を乗りだしてじ～っと見ている子、楽しくて走り回る子と様々。昼食を食べた後は、自由散策。そして、みんな一緒に大観覧車乗車。怖くて大騒ぎしている子も中にはいたが、高い場所からの景色を楽しむことができ良い思いでになった。

振り返り

初めての遠足。大人たちは様々な状況を想定して臨んだが、大人たちの心配をよそに、子どもたちは電車の中で騒ぐこともなく、マナーをしっかり守ることができた。水族園見学では、ボランティアと子どもがしっかり手を繋ぎ歩くことで、安全を最優先することを心がけた。秋晴れのお出掛け日よりとなり、思いっきり屋外にて走り回ることができ、ボランティアとの交流も自然に図ることができた。

実施プログラム報告　遠足（千葉市科学館）

日時	2008 年 1 月 26 日（土）
場所	千葉市科学館（きぼーる）
参加者数	小学生 10 名
指導者数	7 名
実施団体	キッズハウス COCO

活動スケジュール

9:00　東武野田線塚田駅　集合
9:14　東武野田線塚田駅　乗車
10:17 千葉都市モノレール葭川公園駅 着
10:30 科学館見学
12:30 昼食（子育て支援館にて）
13:56 千葉都市モノレール葭川公園駅　乗車
14:40 JR 船橋駅　着
14:50 解散

活動内容と参加者の様子

普段乗りなれないモノレールを利用してのお出掛け。電車なのに高いところを走ることに子どもたちの期待は膨らみ、靴を脱いで窓を向いて座る子、窓に顔を寄せて真剣なまなざしで景色を楽しむ子と様々。科学館においても、それぞれ自分の興味を持つものを見つけ、回してみたり、押してみたりして変化する科学の世界を楽しんでいた。昼食を済ませた後は帰途へ。たくさん集中して疲れたのか、帰りの車中は眠ってしまう子も見られた。

振り返り

小学校低学年の参加が多かったため、移動時間が予測よりもかかり、時間に余裕がなく厳しい行程となった。次回　反省点とした。モノレールを体験させたかったので、乗り継ぎが３回と多くなり、往路復路で混乱する子どもへの対応として、絵カード式しおりを用意することにより、次の行動の予測が図れたためか、安心して行動していた。科学館は大人が思っていた以上に楽しめるところであることがわかった。

実施プログラム報告　遠足（浅草花やしき）

日時	2008 年 2 月 16 日（土）
場所	浅草花やしき
参加者数	小学生 8 名
指導者数	7 名
実施団体	キッズハウス COCO

活動スケジュール

8:30　東武野田線塚田駅集合
8:46　東武野田線塚田駅乗車
9:40 都営浅草線浅草駅 着
10:10 花やしき入園　見学
11:30 昼食
13:40 浅草花やしき入口　集合
14:40 都営浅草線浅草駅　乗車
15:26 東武野田線塚田駅　着
15:30 解散

活動内容と参加者の様子

電車を乗り継ぎ、浅草駅から仲見世のわき道を抜け、花やしきへ。当日は北風の吹く寒い日であったが、遊園地に着くと皆寒さを忘れ、グループごとに乗り物を楽しんだ。スピード系が好きな子、ゆっくり回る乗り物が好きな子、とそれぞれの好みがはっきりと現れていた。昼食を終えても、集合時間まで遊園地を満喫していた。花やしきから浅草駅までの道のりは、子どもの足では、かなり時間がかかると思っていたが、3 回目の遠足で慣れたためか、子どもたちは元気よく歩ていた。帰りの車中はさすがに疲れたようで、眠ってしまう子が多く見られた。

振り返り

休日の浅草ということで人出の多いことが予想された。浅草駅から花やしきまでの徒歩移動としてわき道を通ることにより、子どもたちの安全を図った。また　長距離を歩くことが困難と見られる重複障がい児においては、移動による体力消耗を極力抑えるために、バギーを利用することにより、園内を移動して楽しむことを最優先とした。3 回にわたる遠足だったが、すべてにおいて子どもの安全が図れ、迷い子、怪我等もなく実施できたことは良かった。

実施プログラム報告　ラジオ体操

場所	行田団地商店街（千葉県船橋市行田 23-2-13）および行田公園
活動	ラジオ体操
日時	8 月 7 日(土)〜8 月 29 日(水)　時間は 8:00〜8:10
参加者数	のべ 208 名（詳細は以下参照）
指導者数	1 日　2〜3 名
連携団体	コスモ・ザ・パークス船橋自治会　行田ジャングルクラブ　船橋自然体験クラブ　行田子育て協議会　行田東/行田西/西海神小放課後ルーム父母会

ラジオ体操　日程別参加人数　のべ 208 人

8 月 7 日	7 人	8 月 13 日	5 人	8 月 20 日	13 人	8 月 27 日	26 人
8 月 8 日	11 人	8 月 14 日	5 人	8 月 21 日	14 人	8 月 28 日	9 人
8 月 9 日	15 人	8 月 15 日	8 人	8 月 22 日	10 人	8 月 29 日	15 人
8 月 10 日	11 人	8 月 16 日	7 人	8 月 23 日	10 人		
8 月 11 日	7 人	8 月 17 日	14 人	8 月 24 日	10 人		
		8 月 18 日	6 人	8 月 25 日	5 人		

活動内容と参加者の様子

ラジオ体操は、8 月 27 日にＮＨＫのテレビ体操指導者の多胡肇さんが来てくださった関係で、テレビ体操の「ラジオ体操１」と「ラジオ体操２」を録画し、毎回、その画像を流しながら行った。場所は、商店街の前で、駐車場脇の広場を利用した。時間は、商店街にある学童保育所に来る子どもも参加できるように、朝 8 時開始に設定した。今年の夏は猛暑で、朝 8 時でも太陽が照りつけ、暑さを感じる日も多かった。

通勤の前に参加する方や近所のマンションから保護者も一緒に毎回参加する方もあった。雨が降った日もあったが、商店街の庇を利用して実施することができた。

27 日の参加者には、地元のお祭りである行田夏祭り実行委員会の協力で、子供用のお菓子袋を提供していただき、参加者に配ることができた。

また、行田ジャングルクラブの協力で、最終 29 日の参加者にはカキ氷を食べてもらうことができた。

振り返り

ラジオ体操に関しては、地元の自治会である、行田団地自治会にも協力を要請したが、積極的な賛同は得られなかった。行田団地自治会は、行田団地の賃貸住宅に住む方々で構成されている。高齢者優遇の部屋を数多く設定している関係で、近年　高齢者が増えている。ラジオ体操の音自体が、騒音と受け止められ、苦情が出る心配をしていた。地元に暮らす人々が、すべて他人となってしまっていて、ラジオ体操の音すら、他人の出す音として、騒音になってしまうということに寂しさを感じる。

実施プログラム報告　種ホタル採集

日時	2007 年 8 月 17 日（金）19 時～21 時
場所	金杉谷津田（千葉県船橋市金杉）
参加者数	小学生 8 名　保護者 4 名
指導者数	5 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東／行田西／法典西小放課後ルーム父母会 船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

～19:00　金杉田んぼ　現地集合
19:00　出欠確認、オリエンテーション、諸注意
19:15　自然観察・ホタル観察・種ホタル採集
20:45　採集数集計　まとめ

活動内容と参加者の様子

ホタルの里再生プロジェクトも 2 年目を迎え、参加者の意識がますます盛り上がってきた。今年もたくさんのホタルを繁殖させて、ホタルの乱舞する姿を見たい。これをきっかけに地域の水環境についてもう一度見直し、きれいな水辺を取り戻したい、と参加メンバーの誰もが願っている。そんなことを考えながら現地に到着してみると、意外にも涼しい。猛暑続きで毎日寝苦しい夜が続いている割には、なぜか今夜は不思議と涼しい夜である。

さて、時間になり、まずは出欠の確認をする。次に指導員の栗原さんから観察・採集における注意事項の説明を受ける。ホタルが間違えるから懐中電灯は消すこと。携帯の明かりでさえ、ホタルには悪影響となりうること。暗いので水辺には十分注意すること、単独行動は避けること。特に子どもは絶対に大人のそばを離れないこと・・・等々、これも大切なホタルと自然のため、きちんと守らなくては、とお互い確認した。

いよいよ田んぼのあぜ道を歩き出す。今夜は涼しいせいか、ホタルの飛翔はあまり見受けられなかった。昨年は子どもでも簡単に捕まえられるくらい、それこそ「乱舞」していたのだが、今年はよく目を凝らしてやっとわかる程度の数しか飛んでいない。
「今年は少ないねえ」「こんなもんかなあ」　などと話しながら田んぼの奥地まで歩いていく。
次第に暗闇に目が慣れてくると、ようやく少しずつホタルの光が目に留まるようになってきた。

「あ、いた！」「飛んでる！」「ここにも！」など、子どもたちの歓声があがってくる。
点滅しながらふわりふわりと飛ぶ姿は、とても幻想的である。良かった、今年も無事うまれてきたんだね、と一安心。

船橋谷津田のように、里山の田んぼに生息するホタルの種類はヘイケボタルとのこと。小川の清流よりもむしろ田んぼや湿地帯のように流れのない水辺に生息するらしい。ヘイケホタルが繁殖する船橋の田んぼの環境がいつまでも変わりませんように。

　さて、補虫網を用いて、ある程度の数の種ホタルを採集した。空を飛ぶオスと、草むらにじっとしているメスとのバランスも、ちょうど良い数を採集できたようだ。専用のケースに移し変え、底にはたっぷりのミズゴケを敷き詰めた。「これがホタルの産卵床になるんだよ」と指導員。小さな幼虫が孵化してくるのが待ち遠しい。

　親ホタルの寿命はとても短く１～２週間。この刹那の時間に結婚相手を探して次の世代へといの

ちをつないでいかなくてはならない。

　そのいのちをわれわれのグループがしっかり受け止めて、大切に育てていかなくては、ホタルに対して失礼にあたるというもの。責任は重大である。これから、えさやり、水質の管理、等々しっかりした飼育をしていこうと胸に誓う。そんなことを皆で話しながらそれぞれの家路についた。

振り返り

　子どもたちの感想

- 「本物のホタルを見たのは初めて」
- 「光りながらふわふわ飛んでいた」
- 「点いたり消えたり、かわいかった」
- 「捕まえて手のひらにのせてみたら、
  黒い虫だったのでびっくり」
- 「手のひらにのせても逃げなかった」
- 「飛んでる姿がきれい」
- 「また来年も現れますように」
- 「去年より少なくて、さびしい」

実施プログラム報告　ザリガニつり

日時	2007 年 9 月 8 日（土）10 時～15 時
場所	船橋市金杉谷津田（千葉県船橋市金杉）
参加者数	小学生 7 名 保護者 2 名
指導者数	3 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東／行田西／法典西小放課後ルーム父母会 船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

9:30　行田団地ジャングル　集合　乗用車に相乗りで　金杉谷津田へ
10:00　諸注意（遊び方・危険区域・禁止事項の説明等）
10:15　自由時間
12:00　昼食
14:30　撤収・解散

活動内容と参加者の様子

今日は金杉の田んぼにザリガニつりに出かけました。夏休み直後に中型の台風がやってきて、それまでの猛暑がうそのような天気です。台風一過の空は羊雲がひろがり、初秋の風を運んでくれました。季節は着実に移り変わっているのですね。

さて、田んぼに着いたら早速準備に取り掛かります。 道具は道端でひろった小枝に麻ヒモを結びつけ、最後に一番肝心なえさをくくりつけます。そう、なにをおいても「スルメ」です。

たったこれだけでできるのですから、子どもでも簡単です。 太古の昔から・・・と言えば大げさですが、指導員も保護者たちだって、子どものころのザリガニつりのえさは「スルメ」と相場が決まっていたっけ・・・。

さあ、それぞれの道具が自作できたら、水の中にそーっとえさを入れてみましょう･･･

草のかげなど、ザリガニのかくれていそうなところを上手く狙って・・・

水草の陰からかくれていたザリガニが寄ってくるのがわかります。大きいはさみでスルメを「はさみつける」、というよりは、身体全体でスルメに覆いかぶさり、しっかりとつかんで離しません。その力の強いこと強いこと！十分に引っ張りを確認したら、ころあいを見計らってそーっと引き上げれば、あっという間にザリガニをゲットできます！その間わずか 30 秒！！

早速 1 匹ゲットしました。

コツさえつかめば、みんな大はしゃぎ！！初めての子でも、あっという間にバケツ一杯のザリガニを捕獲することができました。

ザリガニつりの魅力は、次の３点です。

１．　準備が簡単であること。

２．　引きがつよいこと。手に伝わる感触がおもしろい！

３．　ザリガニが食いつく様子が良く見えて、初心者の子どもにもわかりやすいこと。

やはり、いつの時代も子どもの遊びの定番です！

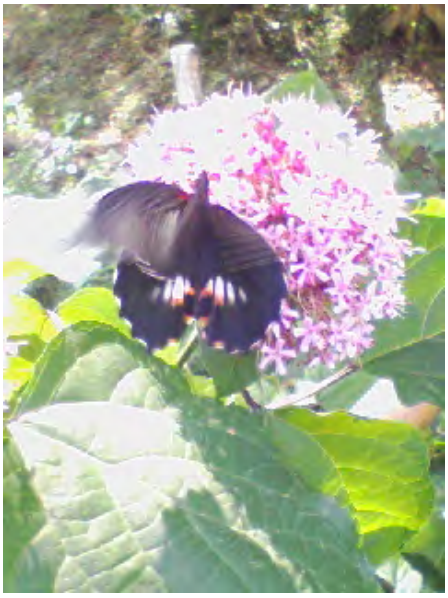
捕まえたザリガニは、大小さまざまでしたが、いわゆる「マッカチン」という大型で鮮やかな赤色のものばかり。まさに、水中の王者の風格をただよわせていました。いつの時代も、おとなも子どももザリガニが大好きです。「こっちが大きい」「こっちが強そう」など言いながら、目を輝かせてバケツをのぞきこんでいました。

本日一番大きなザリガニをゲットしたのは誰でしょうか？

ひとしきり遊んだら、最後はキャッチ＆リリースの精神で、元の田んぼにリリース！！
また一緒に遊ぼうね・・・・

このあとは、おたまじゃくし～カエルの観察。後ろ足の生えたもの、前足が生えてきたもの、などいろんなおたまじゃくしを観察して、めだか・フナ・トンボ・バッタ・カマキリ・アゲハなど、生き物観察をたーっぷりおこないました。

自然の中であそぶと時間がゆっくりになり、時の経つのを忘れてしまいます。あっという間にこんな時間・・・続きはまた今度・・・



ふりかえり

子どもの感想から・・・

「スルメでザリガニを釣れるなんて知らなかった」

「意外と力がつよくておどろいた」

「はさみに挟まれそうで怖かったけど、がんばって手にもてた」

「めだかがかわいかった」

「トンボが頭にとまっておどろいた」

「家の水槽でザリガニを飼ってみたい。お父さんにお願いしよう」

「お父さんと（ザリガニの数を）競争した。負けてくやしかった」

実施プログラム報告　稲刈り

日時	2007 年 9 月 15 日（金）9 時～17 時
場所	金杉谷津田（千葉県船橋市金杉）
参加者数	小学生 16 名　保護者 11 名
指導者数	6 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東／行田西／法典西小放課後ルーム父母会 船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

9:00　行田団地商店街　ジャングル集合

9:30　出欠確認　諸注意

9:45　作業開始

12:00　昼休憩

13:00　作業開始

16:30　作業終了　あとかたづけ

17:00　解散

活動内容と参加者の様子

夏の猛暑のおかげで、今年も稲穂がたわわに実りました。今年も豊作の予感です。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」

稲はまさに重さで垂れ下がり、今まさに地面につきそうなほどでした。

すずめたちも喜んでついばんでいます。ああ、食べられちゃうよ・・・

ま、いいか。たくさんあるから、少しくらいはおすそ分け・・・

最初は道具の使い方について説明がありました。

- 右手に鎌をもち、左手は稲の茎を地面から数センチ上でつかむこと。
- なるべく地面すれすれを刈り取ると後始末が楽なこと。
- ２～３束をまとめて紐またはわらで結わいてまとめること
- まとめた束は、はさがけにして天日干しにすること　　等々

それでは、ケガに気をつけて、習うより慣れろ！早速作業に取り掛かりましょう！！

そうそう！左手で茎を押さえて、地面すれすれを刈ってください！上手！

上手い上手い！その調子で・・・

刈った稲は、数束ごとにまとめてください。

あとは「はさがけ」して天日干しです。適度に水分を抜いて乾燥させると、保存にも適して、おいしいさが引き立つのだそうです。おいしいお米ができますように！

長時間腰をかがめての手作業はとても重労働です。だんだん効率が落ちてきました。昔のお百姓さんの努力に頭が下がります。昔は一家総出で稲刈りをしたとのこと。その大変さが良くわかりました。

そして、労働に飽きてきた子どもたちが目にしたものは・・・・
無農薬で育てた田んぼにはたくさんの虫たちが・・・いるわいるわ・・・・

いなご、ショウリョウバッタ、カマキリ、カエル、クモ、トンボ、いつの間にか虫取り大会へと様変わりしていたのでした。

中には、「お父さんたちの子どものころは、イナゴの佃煮がご馳走だったんだよ・・・」などとなつかしそうに話してくれる保護者もいました。

「このバッタを食べるの？！」と本気でびっくりする子どもたちを尻目に、大人たちの間で、イナゴの佃煮を「食べる／食べない」「おいしい／まずい」と大激論が始まりました。地域によっても若干のかたよりがあるようですが、おおむね東北・信州地方の出身者がよく召し上がっていたようですね。

論より証拠、虫かごにいれて持って帰って、おうちで作ってみたらいかが・・・？

そんなこんなで休憩を挟んで約６時間の作業が終了！最後の一把を束ねたころには、鎌を持つ手は握力がなくなって、かがんでいた腰が痛くて仕方ありませんでした。明日の筋肉痛を気にしながら、解散。

おいしいお米で炊き立ての新米を食べるのが楽しみです！！

振り返り

子どもの感想から

「（稲を持つ）左手が疲れた」

「稲刈りを初めてやった。もっと簡単かとおもっていたので、びっくり」

「稲の葉で指を切っちゃった。痛かったけど楽しかった」

「イナゴの佃煮をたべてみたい」

「カマキリが交尾しているのを見つけた」

「新米でご飯を食べるのが楽しみ」

「おばあちゃんがいつも送ってくれるお米はこうして作られるんだなって、良くわかった」

「きっとおいしいお米になると思う」

「来年もまたやりたい。今度はお母さんも連れてくる」

実施プログラム報告　脱穀

日時	2007 年 10 月 6 日（土）9 時～16 時
場所	金杉谷津田（千葉県船橋市金杉）
参加者数	小学生 12 名　保護者 8 名
指導者数	7 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東／行田西／法典西小放課後ルーム父母会 船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

9:00　行田団地商店街　ジャングル集合　乗用車に分乗して金杉へ
9:30　説明
9:45　作業開始
12:00　昼食休憩
13:00　午後の作業開始
16:00　撤収　解散

活動内容と参加者の様子

長雨の影響で当初の予定より 1 週間遅れの脱穀となりました。

道具は、昔ながらの足踏み式の脱穀機を使います。オルガンのように踏み板をリズミカルに踏んでいきます。すると針のような突起物のついたドラムが高速で回転して、稲穂から籾だけを弾き飛ばしていくのです。

まさに「弾き飛ばす」という言葉がぴったりな表現です

手を入れないように気をつけるんだよ。

踏み役は交代で、リズミカルに踏み続けていかなくてはなりません。ちょっと気を抜くと逆回転するので、昔のミシンのように一定のリズムで踏み続けなくてはなりません。相方は手を巻き込まれないように、気をつけて稲の穂の部分をドラムに当てていきます。

すると稲の籾だけが奥のほうに（上記写真だと向かって左、ブルーシートの方向に）飛ばされていくのです。

今年はたくさん取れたので、籾の量もハンパではありません。飛び散った籾を一生懸命かき集めて袋にいれ、数えてみました。するとゆうに１０袋以上は集まりました。
ざっとみて、６０キロ以上の収穫があったようです。すごい！１俵です。

手元に残った茎（稲わら）も昔は貴重な資源となり、わらじを編んだり、建材に練りこんだり、さまざまな用途に役立ったのでしょう。しかし今回はまとめて積み上げて堆肥にすることにしました。
しばらくするとわらの間にこうろぎやダンゴムシが住み着き、みみずくんが上等の土にかえてくれることでしょう！　自然にムダはありません。上手くできているのですね。
こうして来年は栄養たっぷりの土壌となり、またおいしいお米の育つ田んぼが出来上がるのです。

また来年の田植えまで、おたのしみに！

実施プログラム報告　商店街まつり ストリートコンサート

日時	2007 年 10 月 28 日（日）12 時～17 時
場所	行田団地商店街　交流室前広場
参加者	250 名
スタッフ	15 名
実施団体	（主催：船橋市教育委員会・船橋市音楽フェスティバル実行委員） バザー参加：ジャングルクラブ、行田保育園父母会、行田西小放課後ルーム父母会 ｷｯｽﾞﾊｳｽ COCO

イベント内容

～バンド（2 組）の演奏～

遠く淡路島からやってきたミュージシャン、歌う善玉菌？ともきんさんのステージ。
ギター１本の弾き語りで、最初は、お客さんも少なく、さびしい感じでしたが、だんだんと
立ち止まる人が増え、優しい空気になりました。

Basheze(バシーゼ)、女性 5 人のバンド。
船橋の『バシ』とシロガネーゼの『ゼ』を合わせたネーミング。
まだ、活動 2 年目とあって、コピー中心だが、なじみのある曲で盛り上がった。
2 ステージで、最後には、アンコールも！

～バザー～

各父母をつうじて、日用品、衣類、手作りのものも。
コンサートの時間に合わせて、販売。
商店街に、子供もお年寄りも、集まりました。

振り返り

朝早くから、初めての参加準備に手間取った。
コンサートは１２時からの予定だったが、少し遅れた。
事前に、場所など、もう少し具体的な予定を各団体にも周知しておくべきだった。
コンサートで、集客効果があって、お天気もよかったので、バザーもたくさんのお客さんが来てくれた。
もっと、ＰＲしておけば、もっともっと収穫はありそうだ。
通りかかって、何をしているのかと思いながら、過ぎてしまう人も多かった。
こういった催しが、定期的にあればより効果的だと思う。

うさぎ体験記

バザーなど、イベントといえば、よくみかけるのが、着ぐるみである。
まさか、自分が、入ってみることになるとは、思ってもみなかったが･･･。
幸い、かわいいピンクのうさぎさんであったので、これなら、かわいらしく、
歩いていればいいのかな？などと、簡単に引き受けたのが、甘かった。
入ってみると、着ぐるみによるのだろうが、意外に、よく見える。
着心地もよく、頭が重いのと、手足が巨大なことくらいで、わりに俊敏に動ける。
まず、一番喜びそうな、乳幼児に近づいて、かがむと、顔が引きつって、固まるか逃げていく。
なんで？こんなかわいいのに？･･･恐いらしい。
かがんでいると、バコンと、おしりを蹴られた。
頭をゴンゴン叩く子もいる。
背中のファスナー下げたりする。
思わず、“いてっ、こらっ、やめてー”
“あー、うさぎがしゃべったー”
とりあえず、逃げることにして、いたずらっ子に隙をみせない知恵がついた。
暑さに負けて、1 回休憩。
夢を壊さないように、そうっと隠れて、脱ぎ着していたが、面倒なこと。
着ぐるみの肌触りがよく、ずっとくっついて離れない子もいて、
その子とは、コンサートも一緒にノリノリで見てました。
走ってきて、いきなり抱きつく子もいたり、一緒に写真撮ってくださいって、
照れますねぇ。楽しい経験でした。

実施プログラム報告　収穫祭

日時	2007 年 11 月 17 日（土）10 時～15 時
場所	金杉谷津田（千葉県船橋市金杉）
参加者数	小学生 18 名　保護者 17 名
指導者数	3 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東／行田西／法典西小放課後ルーム父母会 船橋自然体験クラブ

活動スケジュール

9:00 行田団地商店街　自家用車に相乗りして　現地集合
10:00　出欠確認　受付
10:15　かまど準備
12:00　交流会開始
15:00 ごろ　自由解散

活動内容と参加者の様子

　金杉谷津田での今年の作業の締めくくり、最大のイベントは、育てて収穫したお米の試食、すなわち本日の収穫祭であります。
　田おこし→田植え→草取り→稲刈り→脱穀　と続いてきた作業も、この日のためにあるようなもの。一生懸命に手間暇かけて育ててきたのも、すべては今日おいしくいただくため。
　とってもとっても楽しみです。

　いつもの谷津田の少し奥、ザリガニつりをした池の周りに集合しました。
ご飯は大きな釜を使い、まきで炊いていきます。なんとまあ本格的なものでしょう。
それから、地元の方の畑の新鮮な野菜類（にんじん、ねぎ、たまねぎ、さといも、等々・・）がたっぷり入ったカレーを煮込み始めました。

　ご飯のかまど炊きは、今ではキャンプ場で行うくらいの経験しかありませんね。しっかり見て、覚えてください。
　「はじめちょろちょろ、中パッパ、赤子泣いてもふた取るな」
さてどんな意味かしら？　わかるかな・・・？

　カレーのほうは、強火でぐつぐつしています。あたりにいいにおいが漂ってまいりました。
すると急におなかがなってくるから不思議です。早く食べたい！

　しばらくすると谷津田の会のその他のメンバーも集まり、お祭り・歓迎ムードが高まりました。

　谷津田の会代表者（世話人）のご挨拶と参加者の自己紹介が始まり、順次配膳していきます。かまどで炊き上がったご飯（白米）は、つやつや・ふっくらしてとてもいいにおい。底のほうにできたおこげも、香ばしくておいしそうですね。

　ご飯とカレールーを一人ひとりによそってもらったら、みんな一緒に「いただきます！！」
自作のご飯と地元野菜をたっぷり使ったカレーライスは、とてもおいしかったです。

本日は自給率の高い献立でした！

また来年もお楽しみに！

実施プログラム報告　長津川調整池整備作業

日時	2007 年 12 月 1 日（土）9 時～13 時
場所	長津川調整池公園（千葉県船橋市旭町６丁目）
参加者数	小学生 8 名　大人 11 名
指導者数	4 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　船橋自然体験クラブ　とんぼエコオフィス　行田子育て協議会

活動スケジュール

09:00 長津川調整池公園集合　打合せの後、作業開始

12:00 昼食

13:00 解散

活動内容と参加者の様子

長津川調整池公園の整備作業は、親子でできる原体験活動のフィールドを整備するために実施された。

同公園は、調整池を中心に整備されたものであるため、親水公園の側面も持ち合わせている。しかし、池全面は葦で覆われ、池底には泥が堆積し、また、池岸にはゴミが散乱している状態だった。池岸を緑道として整備することで、池に生息する動植物がより身近なものとなり、原体験活動の一助となる。

当日は同公園に現地集合し、まず、公園内の倉庫から機材の運び出しを行った。次に、指導者から参加者へ整備の概要説明、さらに、緑道の土台となる木枠の作成・設置について具体的な検討を行った。検討の後、材料の仕込みに入る。木材を加工するため、墨付けや電動のこぎりでの切断作業を行う。指導者の手本に倣って、参加者が拙いながらも木材を加工していく。

池岸への木枠設置は、池岸に堆積した泥土の除去から始めた。この作業には子どもたちが当たってくれた。スコップ自体の大きさと重さもあって、作業ははかどらなかったが、土の中から出てくるゴミなどを根気よく取り除いてくれた。

池底に掛矢で丸太を打ち込む。慣れない作業で足場の悪さもあって、力の入れ具合が合わない参加者が多い。その丸太に角材の一方をビス止めし、もう片方をコンクリート護岸にビスを打ち込んで固定する。こうした一連の作業によって、緑道木枠の１ブロックが完成した。

公園内でおでんを作り、参加者全員で完成したばかりの木枠を眺めながら昼食をとった。

振り返り

指導者は、環境整備・土木作業の専門家で、作業では的確な指示・助言を与えてくれた。一方で、参加者も、任された作業を工夫しながら進め、普段は扱う機会のない電ノコや掛矢での作業に熱中する様子も見られた。

また、子どもたちは、作業内容が力仕事が多かったこともあって、作業自体への関わりは少なかったものの、池岸で水生生物を探したり、付近でドッヂビーをするなど、外あそびは満喫していた。

実施プログラム報告　長津川調整池整備作業

日時	2007 年 12 月 15 日（土）9 時～13 時
場所	長津川調整池公園（千葉県船橋市旭町６丁目）
参加者数	小学生 4 名　大人 6 名
指導者数	5 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　船橋自然体験クラブ　とんぼエコオフィス　行田子育て協議会

活動スケジュール

09:00 長津川調整池公園集合　打合せの後、作業開始

12:00 昼食

13:00 解散

活動内容と参加者の様子

午前９時に長津川調整池公園に現地集合。同公園まで数キロの道のりを親子でジョギングしてきた参加者もあった。前回同様、資材の運び出し、参加者への作業説明の後、緑道の設置作業に入った。

今回は、前回の反省点を踏まえて、コンクリート護岸への木材の固定方法を変更した。これは、参加者からの提案で、この改善で固定が容易になった。その他の作業は前回と同じで、スムーズに進行した。子どもの作業も、土掘りで変わらずだったが、それしか作業がないと知ってか、その分念入りにスコップをさばいていた。

振り返り

参加者からいくつか提案があったことで、“自分たちの活動”と捉えて参加してくれているのだと感じた。また、子どもたちには、まだそうした意識は生まれていないものの、保護者あるいは身近な大人に付いて作業し、公共性のあるものを築きあげる体験を積むことは大切である。例えば秘密基地など、自分（子ども）たちだけにとって大切なもの意味のあるものを作ることは、あそびの中で日常的に行われている。それは子どもの成長の中で必要な過程だ。その上で、さらに自分以外の誰かにも必要とされる行いを経験していって欲しい。ものづくりは、特に目に見えるものであり、達成感も得られることで、こうした取り組みでは有効である。

実施プログラム報告　長津川調整池整備作業

日時	2008 年 1 月 19 日（土）9 時～11 時
場所	長津川調整池公園（千葉県船橋市旭町６丁目）
参加者数	小学生 4 名　大人 4 名
指導者数	２名
実施団体	行田ジャングルクラブ　船橋自然体験クラブ　とんぼエコオフィス　行田子育て協議会

活動スケジュール

09:00 長津川調整池公園に到着　作業開始

11:00 解散

活動内容と参加者の様子

前回までに設置した緑道木枠を護岸に安定させるために土嚢で補強した。

作業自体は単純で、子どもたちが掘り起こしてくれた池岸の土を土嚢袋に詰め、木枠に沿って沈めるだけであった。

振り返り

圧倒的に単調な作業のため、刺激に乏しい活動だった。ただ、こうした作業でも、多人数で賑わいがある中だと、作業をしながら楽しめることもあるので、参加人数が少なかったことが残念だ。

実施プログラム報告　もちつき大会

日時	2008 年 2 月 2 日（土）10 時～13 時
場所	行田団地商店街　広場
参加者数	約 200 名
指導者数	12 名
実施団体	行田ジャングルクラブ　行田東/行田西/西海神小放課後ルーム父母会、キッズハウス COCO
協賛団体	行田商店会
ゲスト	松ヶ根部屋

活動スケジュール

9:00 準備
10:00 開会式
10:00 もちつき、お相撲さんと遊ぼう～
13:00 閉会

活動内容と参加者の様子

行田ジャングルクラブと、行田西小学校、行田東小学校、法典西小学校の各放課後ルームの父母会を中心として、新年のもちつきを行いました。今年のゲストはなんと松ヶ根部屋の若い力士 3 人！
寒空の中、準備の時間から力士たちは浴衣？姿で現地入りしてくれました。父母会のお母さんたちは、納豆、きなこ、おろし大根、お汁粉の準備です。子どもも手伝いながら大根を何本もおろし、納豆を数十パックかきまぜ、お汁粉をグツグツにて、複雑な香りのなかもちつきが始まりました。
力士のもちつきは、素晴らしいです！
杵を軽々ともちあげ、あっという間にムラなく美味しいお餅につきあげます。いつものお父さんたちがついてくれる、お米の残ったお餅とは格段の差です。子どもたちも初めはつきたての美味しいお餅に群がっていましたが、ひととおり味わうと、今度は力士に向かっていって遊んでもらいました。同じ商店街のお隣の高齢者施設からも、ご老人たちが車イスで何人か参加してくれました。
おもちだけでは！と、商店街のお肉やさんもコロッケを出してくれてお昼前にはお餅もコロッケも不足するくらいの大盛況！！！
老いも若きも寒空の中で、まったく寒くなさそうな力強い若い力士たちと、楽しいひとときを過ごした餅つきイベントでした。

振り返り

真冬の土曜日の午前中でしたが、小学校の父母会だけではなく、通りかかる方やご近所の方もたくさん参加してくれました。こういうイベントを通して、地域の人たちと知り合い、

次の行事はさらに協賛が増えて、多くの人で作り上げるイベントができるのかなと思います。子どもが中心の行事ですが、お隣の高齢者施設からも参加いただくことができて、うれしく思いました。少しずつ、皆が歩みよって繋がりができてゆくのだという感想をもちました。お相撲さんの力はかなり大きかったと思います。それでもこういった機会から次へ繋がっていくイベントであったと大満足です。
反省があるとすれば、もっと参加していただいた力士やご近所の高齢者も含めて、お話をするというテーマもあればよかったかと思います。

この報告書に関するお問合せ先
船橋行田放課後対策実行委員会 住所　千葉県船橋市行田3-2-13-103　行田ジャングルクラブ内 電話・ＦＡＸ　047-411-7844 Ｅ－ｍａｉｌ　gakudou@gyouda.com